

ツハシ

前項ノ場合ニ於テ各組合員ハ通帳ヲ當該承認局所ニ差出シ拂戻制限ニ關スル
徴號ノ取消ヲ受クヘシ

第百十二條 規約貯金預ケル組合ヲ脱シタルトキハ通帳ニ組合脱退承認ニ關ス
ル證明書ヲ添ヘ規約貯金ノ取扱ヲ承認シタル郵便局所ニ差出シ拂戻制限ニ關
スル徴號ノ取消ヲ受クヘシ

第百十三條 前二條ノ場合ニ於テ其ノ預ケ人他ニ通常貯金通帳ヲ所持スルトキ
ハ共ニ之ヲ郵便局所ニ差出シ通常貯金通帳ニ規約貯金ノ轉記ヲ受クヘシ

第二節 据置貯金

第百十四條 一定ノ期間拂戻ヲ爲ササル條件ヲ以テ預入シタル貯金ハ之ヲ据置
貯金トス

据置貯金ノ期間ハ最初預入ノ日ヨリ起算シ三箇年乃至十箇年ノ年限内ニ於テ
貯金預ケ人任意之ヲ指定スヘシ

第百十五條 新ニ据置貯金ノ預入ヲ爲サムトスルモノハ貯金預入申込書ニ其ノ
据置期間ヲ明記スヘシ

第百十六條 貯金預ケ人其ノ貯金ヲ据置貯金ト爲サムトスルトキハ其ノ請求書
ニ通帳ノ記號番號及据置期間ヲ記載シ之ニ通帳ヲ添ヘ郵便局所ニ差出シ其ノ
承認ヲ受クヘシ

前項ノ場合ニ於ケル据置期間ハ其ノ申請ノ日ヨリ起算ス

第百十七條 据置貯金ノ通帳ニハ郵便局所ニ於テ其ノ表紙ニ据置貯金ノ旨ヲ附
記ス

前項ノ通帳ニ記入シタル貯金ハ總テ据置貯金ト看做ス

第百十八條 据置貯金ハ据置期間満了ノ後ニ非ラサレバ其ノ拂戻ヲ爲サス其ノ
貯金ヲ以テ購入シタル證券ノ交付ニ付テモ亦同シ

第百十九條 据置貯金ノ預ケ人ハ据置期間満了ノ際ニ於テ其ノ期間ヲ更新スル
旨ヲ得此ノ場合ニ於テハ第百十六條ノ例ニ依リ郵便局所ノ承認ヲ受クヘシ

第三類 郵便貯金規則

第二百十條 据置貯金ノ預ケ人其ノ期間満了ノ際他ニ通常貯金通帳ヲ所持スル
トキハ共ニ之ヲ郵便局所ニ差出シ通常貯金通帳ニ据置貯金ノ轉記ヲ受ケヘシ

第三節 共同貯金

第二百十一條 貯金ノ預入ヲ爲サムトスル者共同シ總代人ノ名義ヲ以テ預入ス
ル貯金ハ之ヲ共同貯金トス

第二百十二條 共同貯金ノ取扱ヲ受ケムトスルトキハ其ノ總代人ニ於テ貯金預
入申込書ニ其ノ旨ヲ附記シ之ヲ郵便局所ニ差出スヘシ

郵便局所ニ於テ共同貯金ノ取扱ヲ承認スルトキハ總代人ニ通帳及其ノ通帳ノ
記號番號ヲ記入シタル貯金預入票用紙ヲ交付ス

第二百十三條 總代人ハ隨時貯金預入票用紙ノ交付ヲ請求スルコトヲ得此ノ場
合ニ於テハ通帳記號番號及所要數量ヲ記載シタル請求書ヲ通帳ノ交付ヲ受ケ
タル郵便局所ニ差出スヘシ

第二百十四條 貯金預入票用紙ハ私製ノモノヲ使用スルコトヲ得

前項ノ用紙ハ郵便局所發行ノモノト同様ナルコトヲ要ス但シ其ノ裏面ニハ共
同貯金ニ關スル事項ニシテ通信文ノ性質ヲ有セサルモノニ限り之ヲ印刷スル
コトヲ得

第二百十五條 總代人ハ貯金預入票用紙ハ相當欄ニ自己ノ住所氏名ヲ記入シ私
製ノモノニアリテハ尙通帳記號番號ヲ記入シ之ヲ各共同者ニ配付スヘシ

第二百十六條 總代人ハ貯金預入票用紙ヲ各共同者ニ配付スル爲其ノ送達ヲ郵
便局所ニ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ用紙ニ封シ其ノ表面ニ配
付ヲ要スル共同者ノ住所氏名ヲ記載シ郵便局所ニ差出スヘシ

第二百十七條 共同貯金ノ預入ヲ爲サムトスル者ハ預入票用紙ニ相當事項ヲ記
載シ預入金ト共ニ郵便局所ニ差出シ預入金受領證ヲ受取ルヘシ

多數ノ者同時ニ前項ノ預入ヲ爲サムトスルトキハ之ヲ取纏メ一枚ノ預入票ヲ
以テ其ノ預入ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ取纏人ニ於テ預入票ニ相當事
項ヲ記載シ且其ノ裏面ニ各預入者ノ氏名及金高ヲ附記シ又ハ別ニ内譯書ヲ添

第三類 郵便貯金規則

第三百二十八條 前條ノ預入金ハ郵便爲替貯金管理所又ハ同支所ニ於テ之ヲ其ノ總代人各義ノ共同貯金トシテ預ケ人原簿ニ登記シ預入票ヲ總代人ニ送付ス

第三百二十九條 總代人前條預入票ヲ送付ヲ受ケタルトキハ之ヲ郵便局所ニ差出テ通帳ニ預入金ヲ記入ヲ受ケルニシテ但シ同時ニ多數ノ記入ヲ要スルモノニシテ其ノ預入月次同簿ナルモノハ郵便局所ニ於テ之ヲ取纏メ通帳ニ記入ス

第三百三十條 儲蓄貯金預ケ人ハ自己名義ノ貯金ヲ共同貯金ニ組替テ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ預入票ニ組替ノ旨ヲ附記シ通帳ト共ニ之ヲ郵便局所ニ差出シ通帳受領證ヲ受取ルニシ

前項貯金ヲ組替ニ關シテ前二條ノ規定ヲ準用ス但シ貯金ノ一部組替ヲ要スルモノハ別トキハ其ノ組替金額ヲ通帳ニ記入シ通帳受領證ト引換ニ之ヲ預ケ

凡ハ返付金ニ關シテハ前二條ノ規定ヲ準用ス

第三百三十二條 共同貯金ノ組合ヲ解除シタルトキハ總代人ニ於テ其ノ貯金ノ拂戻ヲ請求スヘシ

第四節 海外貯金

第三百三十二條 我郵便局所ノ設置ナキ外國ニ在留スル本邦人郵便貯金ノ預入ヲ爲サムトスルトキハ適宜ノ用紙ニ本籍、現住所、職業、氏名及初度預入金額ヲ記載シ且自己ノ印章ヲ鮮明ニ押捺シ之ヲ郵便爲替貯金管理所ニ宛テ送付シ預入金ハ郵便爲替ニ依リ之ヲ同所ニ送付スヘシ但シ預ケ人ノ現住所及氏名ハ邦文ヲ以テ記載スルニ外尙在留國ノ文字ヲ以テ明瞭ニ附記スヘシ

第三百三十三條 前條ニ依リ預入ヲ爲シタル者再度以後ノ預入ヲ爲サムトスルトキハ其ノ預入金ヲ郵便爲替ニ依リ郵便爲替貯金管理所ニ送付スヘシ

第三百三十四條 郵便爲替貯金管理所ニ於テ前二條ニ依リ送付ヲ受ケタル爲替金ハ郵便貯金ニ振替受入レ之ヲ預ケ人原簿ニ登記ス

第三百三十五條 海外貯金預ケ人貯金ノ拂戻ヲ受ケムトスルトキハ適宜ノ用紙ニ本籍、現住所氏名及拂戻金高ヲ記載シ且印章ヲ鮮明ニ押捺シ之ヲ郵便爲替貯金管理所ニ送付ス

第三類 郵便貯金規則

金管理所ニ送付スヘシ但シ預ケ人ノ現住所及氏名ハ邦文ヲ以テ記載スルノ外
尙在留國ノ文字ヲ以テ明瞭ニ附記スヘシ

第三百三十六條 郵便爲替貯金管理所ニ於テ前條ノ請求ヲ受ケタルトキハ其ノ拂
戻金ヲ郵便爲替ニ依リ之ヲ請求人ニ送付ス此ノ場合ニ於テハ爲替料ヲ請求人
ノ貯金ヨリ控除ス

第三百三十七條 海外貯金預ケ人ハ第三百三十五條ノ例ニ準シ内國在住者ヲ指定シ
之ニ貯金ノ拂渡ヲ請求スルコトヲ得
郵便爲替貯金管理所ニ於テ前項ノ請求ヲ受ケタルトキハ拂戻證書ヲ發行シ之
ヲ指定ノ受取人ニ送達ス

第三百三十八條 海外貯金預ケ人其ノ貯金ニ關シ各種ノ請求又ハ届出ヲ爲サズト
スルトキハ適宜ノ用紙ニ依リ請求書又ハ届書ヲ調製シ之ヲ郵便爲替貯金管理
所ニ送付スヘシ

第三百三十九條 海外貯金預ケ人歸國シタルトキハ速ニ通帳ノ交付ヲ郵便爲替貯

金管理所ニ請求スヘシ此ノ場合ニ於テハ郵便局所ニ於テ交付スル用紙ニ依リ
通帳交付請求書ヲ調製シ之ヲ郵便爲替貯金管理所ニ送付シ又ハ郵便局所ニ差
出スヘシ

郵便爲替貯金管理所ニ於テ前項ノ請求ヲ受ケタルトキハ通帳ヲ發行シ之ヲ郵
便局所ニ送付シ其ノ旨ヲ請求人ニ通知ス

第三百四十條 請求人前條第二項ノ通知ヲ受ケタルトキハ其ノ通知書ニ受領證印
シ又ハ別ハ通帳受領證ヲ調製シテ之ヲ指定ノ郵便局所ニ差出シ且正當預ケ人
タルコトヲ證明シタル上通帳ノ交付ヲ受ケヘシ

附 則

第三百四十一條 本規則ハ明治三十八年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

郵便貯金條例施行細則、郵便切手貯金規則、證券郵便貯金規則、特別郵便貯
金規則、規約貯金特別取扱規則、郵便集配人取集郵便貯金規則及明治三十七
年十二月遞信省令第七十二號ハ本則施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

第三類 郵便貯金規則

第四百二十二條 郵便貯金振替計算ニ關スル規定ハ別ニ之ヲ定ム

●郵便貯金利息割合

(明治三十八年五月十七日勅令第百六十六號)

朕郵便貯金利息割合ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

郵便貯金ニ付スヘキ利息ノ割合ハ年五分四毛トス但シ千圓以上ノ預入金ニ對シテハ省令ヲ以テ利息ノ割合ヲ低減スルコトヲ得

●附則

本令ハ明治三十八年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

●郵便爲替

●郵便爲替法

(明治三十三年三月十二日法律第五十五號)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル郵便爲替法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

郵便爲替法

第一條 郵便爲替ハ通常爲替電信爲替及小爲替ノ三種トス

第二條 通常爲替證書及小爲替證書ハ命令ヲ以テ定ムル場合ヲ除クノ外差出人ニ於テ之ヲ其ノ受取人ニ送達ス

電信爲替證書ハ郵便官署ニ於テ之ヲ其ノ受取人ニ送達ス

第三條 郵便官署ハ差出人ノ請求ニ因リ通常爲替證書及電信爲替證書ニ對テハ郵便爲替金ノ拂渡前ニ於テ其ノ拂渡ヲ停止シ又ハ其ノ拂戻ヲ爲スコトヲ得

第四條 郵便爲替ニ關シ無能力者ノ郵便官署ニ對シテ爲シタル行爲ハ能力者ノ爲シタルモノト看做ス

第五條 郵便官署ハ受取人ノ眞偽ヲ調査スル爲受取人ヲシテ必要ナル證明ヲ爲サシムルコトヲ得

第六條 郵便爲替ニ關スル書類ニ付テハ印紙稅ヲ課セズ

第七條 郵便爲替金額ノ制限及郵便爲替ニ關スル料金ハ命令ノ定ムル所ニ依

第三類 郵便爲替法

第八條 郵便爲替ニ關スル料金ハ命令ヲ以テ定ムル場合ヲ除クノ外郵便切手ヲ以テ納付スヘシ

第九條 郵便爲替ニ關スル既納及過納ノ料金ハ命令ヲ以テ定ムル場合ヲ除クノ外之ヲ還付セス

第十條 郵便爲替證書ノ有効期間ハ其ノ發行ノ日ヨリ通常爲替及電信爲替ニ在リテハ九十日小爲替ニ在リテハ六十日トスルニ依リ之ヲ延長スルコトヲ得

第十一條 郵便官署ニ於テ郵便爲替金ノ拂渡ヲ遲延シタル爲經過シタル日數ハ前條ノ有効期間ニ算入セス
第十二條 郵便爲替證書ノ有効期間ヲ經過シタルトキ又ハ郵便爲替證書ヲ亡失毀損若ハ汚斑シタルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ差出人又ハ受取人ニ於テ再

度證書ノ交付又ハ爲替金ノ拂戻ヲ請求スルコトヲ得

再度證書ヲ發行シタルトキハ原證書ハ無効トス

第十三條 郵便爲替證書ノ有効期間満了ノ日ヨリ三箇年間前條ノ請求ヲ爲ササルトキハ其ノ郵便爲替金ハ國庫ノ所有ニ歸ス

第十四條 成規ノ手續ヲ經テ爲替金ヲ交付シタルトキハ正當ノ拂渡ヲ爲シタルモ以テ看做ス

第十五條 郵便官署ハ郵便爲替金拂渡ノ遲延ニ因リ生シタル損害ニ付賠償ノ責ニ任セス

第十六條 郵便爲替ニ關シ條約ニ別段ノ規定アルモノハ各其ノ規定ニ依ル

附則

第十七條 本法ハ明治三十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

郵便條例第十二章及第二百四十二條之ヲ廢止ス

第十八條 本法施行前ニ發行シタル郵便爲替證書及郵便小爲替證書ニ關シテ本第三類 郵便爲替法 三百七十五

本法ノ規定ヲ適用ス但シ本法施行前其ノ有効期間満了シタルモノニ在リテハ第十三條ノ期間ハ五箇年下シ其ノ有効期間満了セサルモノニ在リテハ第十條第一項ノ期間ハ郵便爲替證書ニ付テハ百二十日郵便小爲替證書ニ付テハ六十日トス

●郵便爲替規則 (明治三十三年九月一日 逓信省令第四十五號)

郵便爲替規則左ノ通相定ム
郵便爲替規則

- 第一章 總則
- 第二章 通常爲替
- 第三章 振出
- 第四章 拂渡
- 第五章 拂渡停止及拂戻

第四節 拂渡若ハ拂戻郵便局所ノ變更

- 第三章 電信爲替
- 第四章 小爲替
- 第五章 再度證書
- 第六章 郵便爲替金拂渡濟通知
- 第七章 郵便爲替金居宅拂

郵便爲替規則

第一章 總則

第一條 郵便爲替ハ郵便局所ニ於テ之ヲ取扱フ但シ特ニ之ヲ取扱ハサルコトヲ告示シタル局所ハ此ノ限ニ在ラス

郵便爲替貯金管理所ハ特ニ指定シタル郵便爲替ニ限り之ヲ取扱フ

第二條 郵便爲替證書一枚ノ金額制限ハ別ニ定ムルモノヲ除ク外左ノ如シ

第三類 郵便爲替規則

一 通常爲替 金五十圓

一 電信爲替 金五十圓

一 小爲替 金五圓

通常爲替及小爲替ノ金額ハ厘位未滿電信爲替ノ金額ハ圓位未滿ノ端數ヲ付スルコトヲ得ス

第三條 郵便爲替證書一枚ノ爲替料ハ別ニ定ムルモノヲ除クノ外左ノ如シ

金額十圓以内 六錢

同 二十圓以内 十錢

通常爲替 同 三十圓以内 十五錢

同 四十圓以内 十八錢

同 五十圓以内 二十二錢

金額十圓以内 三十錢

同 二十圓以内 三十五錢

電信爲替 同 三十圓以内 四十五錢

同 四十圓以内 四十五錢

同 五十圓以内 五十錢

小爲替 三錢

第三條ノ二 郵便、郵便爲替、郵便貯金、電信、電話ノ事務ニ關シ當該官署相互間又ハ當該官署下其ノ官吏トノ間ニ受授スル官金及遞信大臣ニ於テ特ニ必要ト認メタル者ノ間ニ受授スル金員ハ無料通常爲替ト爲スコトヲ得 (三十七年遞信省令第四十三號ヲ以テ本條追加)

前項ノ無料通常爲替ニ對シテハ其ノ證書一枚ノ金額ニ制限ヲ付セス

第四條 郵便爲替ノ差出人及受取人ハ各一名ニ限ル

第五條 郵便爲替證書ハ任意ニ讓渡スコトヲ得ス但シ小爲替證書ニシテ受取人

第三類 郵便爲替規則

ノ指定ナキモノハ此ノ限リニ在ラス

第六條 代人ヲ以テ本規則ニ規定スル各種ノ請求ヲ爲サムトスルトキハ本人ニ於テ其ノ請求書證書等ノ裏面ニ委任文ヲ記載シ記名調印スルカ又ハ別ニ委任狀ヲ差出スヘシ此ノ場合ニ於テハ代人ハ請求書證書等ニ代人タルノ肩書ヲ付シ記名調印スヘシ

第七條 法人又ハ法人ニアラサル團體ヨリ本規則ニ規定スル各種ノ請求ヲ爲サムトスルトキハ其ノ請求書證書等ニ其ノ名稱ヲ記載調印スルカ又ハ其ノ代表者若ハ金錢ノ出納ヲ掌ル者ニ於テ其ノ肩書ヲ付シ記名調印スヘシ

第八條 印章ヲ所有セサル爲メ本規則ニ規定スル各種ノ請求書證書等ニ調印スルコト能ハサルトキハ相當保證人ヲ立テ記名調印セシムヘシ

第九條 郵便爲替ノ差出人郵便爲替金ノ受領證書ノ提出又ハ呈示ヲ要スル場合ニ於テ亡失等ノ爲メ之ヲ提出又ハ呈示シ能ハサルトキハ相當保證人ヲ立テ其ノ證明書ヲ差出スヘシ

第十條 千島國琉球國小笠原島伊豆諸島及臺灣ニ設置シタル郵便局所ト取組ミタル郵便爲替證書ノ有効期間ハ百二十日トス但シ同一國內又ハ同一島内ニ取組ミタルモノハ此ノ限ニ在ラス
千島國ニ設置シタル郵便局所ト取組ミタル通常爲替證書及電信爲替證書ニ對シテハ毎年十二月一日ヨリ翌年四月三十日マテハ其ノ有効期間ニ算入セ

第十二條 郵便爲替ニ關シ當該事務員ノ過失ニ因リ左ノ事故ヲ生シタルトキハ差出人又ハ受取人ノ請求ニ依リ郵便切手ヲ以テ其ノ既納ノ料金を還付ス

- 一 電信爲替證書ノ送達ヲ通常爲替證書ノ到達スヘキ期限ニ後レシメ因テ該爲替金ノ拂戻トナリタルトキ
- 二 郵便爲替ノ特殊取扱ニ關シ料金ノ納付ヲ要シタル手續ヲ脱漏シタルト

前項ノ請求ハ郵便爲替證書有効期間満了後三箇月以内ニ料金を納付シタル郵便

第三類 郵便爲替規則

便局所ニ之ヲ爲スヘシ

第二章 通常爲替

第一節 振出

第十二條 通常爲替ノ差出人ハ郵便局所ニ於テ通常爲替振出請求書用紙ノ交付ヲ受テ相當事項ヲ記入シ之ニ爲替金及爲替料ヲ添ヘ郵便局所ニ差出シ通常爲替證書及通常爲替金受領證書ヲ受取ルヘシ
前項通常爲替振出請求書ニハ差出人及受取人ノ商標、商號又ハ其他ノ符號ヲ

附記スルコトヲ得

第十三條 振出郵便局所ハ郵便ニ依リ前條通常爲替振出請求書ヲ拂渡郵便局所ニ送付ス

第十四條 通常爲替ノ差出人ハ爲替振出ノ際豫メ一定ノ期間ヲ限リ其ノ爲替金拂渡猶豫ノ請求ヲ爲スニ得此ノ場合ニ於テハ通常爲替振出請求書ニ猶豫

スヘキ日數ヲ記載スヘシ

第十五條 通常爲替ノ差出人ハ爲替振出ノ際通常爲替證書ノ送達ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ料金トシテ通常爲替證書一枚毎ニ金五錢ヲ納付

スヘキ日數ヲ記載スヘシ

前項ノ請求ヲ爲シタル差出人ハ通常爲替振出請求書餘白ニ爲替金送付ノ目的ヲ記載シ自己ノ宿所氏名ト共ニ受取人ニ之レヲ通知ヲ請求スルコトヲ得前項爲替金送付ノ目的ハ通常爲替證書送達ノ際其ノ餘白ニ記入スルモトス

第十六條 通常爲替ノ受取人所在不明等ノ爲前條ノ通常爲替證書ヲ送達スルコト能ハサルトキハ之ヲ差出人ニ返付ス

第十七條 通常爲替ノ差出人爲替振出後通常爲替振出請求書ニ自己ハ受取人ノ宿所氏名等ヲ誤記シタルコトヲ覺知シタルトキハ振出郵便局所ニ訂正請求書ヲ差出シ郵便又ハ電信ニ依リ拂渡郵便局所ニ訂正事項ノ通知ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ通常爲替金受領證書ヲ呈示スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ差出人ハ其ノ料金トシテ郵便ニ依ルモノハ金三錢電信ニ

第三類 郵便爲替規則

依ルモノハ該電報料金ニ相當スル金額ヲ納付スヘシ

第十八條 振出郵便局所ニ於テ前條ノ請求ニ應シタル場合ト雖拂渡郵便局所ニ於テ既ニ爲替金ヲ拂渡シタル後ナルトキハ其ノ旨ヲ差出人ニ通知ス

第二節 拂渡

第十九條 通常爲替ノ受取人爲替金ノ拂渡ヲ請求セムトスルトキハ通常爲替證書ニ記名調印シ之ヲ拂渡郵便局所ニ差出スヘシ

第二十條 拂渡郵便局所ハ受取人ニ左ノ事項ヲ尋問シ通常爲替振出請求書ニ記載シタル事項ニ符合スルヲ認メ爲替金ノ拂渡ヲ爲スモノトス但シ第十五條第二項ノ請求アルモノニ對シテハ本條第一號ノ尋問ヲ省略スルコトアルヘシ

- 一 差出人ノ宿所氏名
- 二 受取人ノ宿所氏名
- 三 前各號ノ外拂渡上必要ト認ムル事項

第二十一條 通常爲替證書ニシテ左ノ事項判明ナラサルモノハ毀損汚穢シタルモノトス

- 一 爲替金額
- 二 爲替證書ノ記號番號
- 三 爲替證書ヲ發行シタル郵便局所主務者ノ記名調印

第二十二條 左ノ場合ニ於テハ爲替金ノ拂渡ヲ停延ス

- 一 通常爲替證書違式ノトキ
- 二 通常爲替振出請求書違式ノトキ
- 三 通常爲替振出請求書未達ノトキ
- 四 通常爲替證書ト通常爲替振出請求書ト金額符合セサルトキ
- 五 拂渡資金缺乏ノトキ

第二十三條 拂渡郵便局所ニ於テ爲替金ノ拂渡ヲ停延スルトキハ通常爲替證書ノ裏面ニ其ノ事由及日數ヲ記載證印シ之ヲ受取人ニ返付ス

第三類 郵便爲替規則

第二十四條 第二十二條ニ依リ爲替金ノ拂渡ヲ停延シタル場合ト雖其ノ停延期間内ニ事故判明スルカ又ハ資金充實シ拂渡ニ差支ナキニ至リタルトキハ直ニ之ヲ受取人ニ通知ス

第二十五條 通常爲替ノ受取人ハ通常爲替證書ト通常爲替振出請求書ト金額符合セサル場合ニ於テ其ノ少ナキ金額ヲ限度トシ爲替金ノ假拂渡ヲ請求スルコトヲ得

第二十六條 通常爲替ノ受取人通常爲替證書ノ金額ニ符合セサル爲替金ヲ受取ルトキハ通常爲替證書裏面ニ其ノ金額ヲ記載シ記名調印スヘシ

第三節 拂渡停止及拂戻

第二十七條 通常爲替ノ差出人爲替金ノ拂渡停止ヲ請求セムトスルトキハ其ノ請求書ヲ郵便局所ニ差出シ且通常爲替金受領證書ヲ呈示スヘシ

前項ノ請求ヲ受ケタル郵便局所ニ於テ拂渡郵便局所ニ通知ヲ要スル場合ニ於テハ其ノ料金トシテ郵便ニ依ルモノハ金三錢電信ニ依ルモノハ該電報料金ニ

相當スル金額ヲ納付スヘシ
第二十八條 郵便局所ニ於テ前條ノ請求ニ應シタル場合ト雖拂渡郵便局所ニ於テ既ニ爲替金ヲ拂渡シタル後ナルトキハ其ノ旨ヲ差出人ニ通知ス

第二十九條 第二十七條ノ規定ハ通常爲替ノ差出人爲替金拂渡停止ノ解除ヲ請求セムトスル場合ニ之ヲ準用ス

第三十條 通常爲替ノ差出人爲替金ノ拂戻ヲ請求セムトスルトキハ通常爲替證書ニ記名調印シ通常爲替金受領證書ト共ニ振出郵便局所ニ差出スヘシ

差出人通常爲替證書ノ有効期間ヲ經過シタル場合ニ於テ爲替金ノ拂戻ヲ請求セムトスルトキハ亦前項ノ手續ヲ爲スヘシ

第三十一條 通常爲替ノ差出人通常爲替證書ヲ亡失毀損若ハ汚斑シタル場合ニ於テ爲替金ノ拂戻ヲ請求セムトスルトキハ郵便局所ニ於テ郵便爲替金拂戻請求書用紙ノ交付ヲ受ケ相當事項ヲ記人シ振出郵便局所ニ差出シ且通常爲替金受領證書ヲ呈示スヘシ

第三類 郵便爲替規則

振出郵便局所ハ拂渡郵便局所ニ於テ其ノ爲替金ノ拂渡ナキコトヲ確認シタル後前項ノ郵便爲替金拂戻請求書ニ拂戻認可ノ旨ヲ記載シ之ヲ差出人ニ返付ス

差出人ハ前項ノ郵便爲替金拂戻請求書中爲替金受領證印ノ部ニ記名調印シ通常爲替金受領證書ト共ニ之ヲ差出スヘシ

第三十二條 第三十條第二項及第三十一條ノ場合ニ於テハ其ノ料金トシテ通常爲替一日ニ付金六錢ヲ納付スヘシ

第三十三條 本章第二節ノ規定ハ通常爲替金拂戻ノ場合ニ之ヲ準用ス
第四節 拂渡若ハ拂戻郵便局所ノ變更

第三十四條 通常爲替ノ差出人又ハ受取人ハ拂渡郵便局所ノ變更ヲ請求スルコトヲ得

差出人ハ拂戻郵便局所ノ變更ヲ請求スルコトヲ得
第三十五條 通常爲替ノ差出人拂渡郵便局所又ハ拂戻郵便局所ノ變更ヲ請求セ

ムトスルトキハ振出及拂渡郵便局所名、爲替證書記號番號、爲替金額及拂渡又ハ拂戻ヲ受ケムトスル郵便局所名ヲ記載シタル變更請求書ヲ郵便局所ニ差出シ且通常爲替金受領證書ヲ呈示スヘシ

第三十六條 通常爲替ノ受取人拂渡郵便局所ノ變更ヲ請求セムトスルトキハ振出及拂渡郵便局所名、爲替證書記號番號、爲替金額及拂渡ヲ受ケムトスル郵便局所名ヲ記載シタル變更請求書ヲ郵便局所ニ差出シ且通常爲替證書ヲ呈示スヘシ

第三十七條 前二條ノ場合ニ於テハ其ノ料金トシテ通常爲替一口ニ付金六錢ヲ納付スヘシ

第三十八條 郵便局所ニ於テ拂渡又ハ拂戻郵便局所ノ變更ヲ認可スルトキ又ハ既ニ爲替金ノ拂渡若ハ拂戻ヲ爲シタル後ナルトキハ其ノ旨ヲ請求者ニ通知ス

第三章 電信爲替

第三類 郵便爲替規則

第三十九條 電信爲替ノ差出人ハ郵便局所ニ於テ電信爲替振出請求書用紙ノ交付ヲ受ケ相當事項ヲ記入シ差出人及受取人ノ宿所氏名ニ片假名文字ヲ附記シ之ニ爲替金及爲替料ヲ添ヘ郵便局所ニ差出シ電信爲替金受領證書ヲ受取ルベシ

第四十條 電信爲替ハ振出郵便局所ニ於テ電信ニ依リ爲替金額、受取人ノ宿所氏名及差出人ノ氏名ヲ拂渡郵便局所ニ通報ス但シ電信ヲ取扱ハサル郵便局所ニ在リテハ該通報ハ郵便接續ノ方法ニ依ル

前項ノ通報ハ差出人ニ於テ至急電報ノ取扱又ハ郵便接續ノ場合ニ於テ別配達ノ取扱ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ別ニ其ノ料金トシテ至急電報ノ取扱ニ對シテハ金四十錢別配達ノ取扱ニ對シテハ郵便別配達料ニ相當スル金額ヲ納付スヘシ

第四十一條 拂渡郵便局所ニ於テ前條ノ爲替電報ヲ受ケタルトキハ之ニヨリ電信爲替證書ヲ作り之ヲ受取人ニ送達ス但シ郵便集配事務ヲ取扱ハサル郵便局

所ニ於テ拂渡スヘキモノナルトキハ其ノ附近ニ在ル郵便集配事務及郵便爲替事務ヲ取扱フ郵便局所ニ於テ本文ノ手續ヲ爲ス(三十七年遞信省令第三十三號ヲ以テ但書追加)

差出人ハ爲替振出ノ際電信爲替證書ノ別配達ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其料金トシテ郵便別配達料ニ相當スル金額ヲ納付スヘシ

第四十二條 第二章ノ規定ハ第十二條乃至第十五條ヲ除ク外之ヲ電信爲替ニ準用ス

第四章 小爲替

第四十三條 小爲替ノ差出人ハ爲替金及爲替料ヲ郵便局所ニ差出シ小爲替證書及小爲替金受領證書ヲ受取ルヘシ

第四十四條 小爲替ノ差出人ハ小爲替證書相當欄ニ拂渡郵便局所名及受取人ノ宿所氏名ヲ記入スヘシ但シ小爲替證書持參人ヲシテ爲替金ノ拂渡ヲ受ケシメムトスルトキ又ハ隨意ノ郵便局所ニ於テ其ノ拂渡ヲ受ケシメムトスルトキハ

第三類 郵便爲替規則

受取人宿所氏名又ハ拂渡郵便局所名ヲ記入ヲ省略スルコトヲ得

第四十五條 小爲替ノ差出人拂渡郵便局所又ハ受取人ノ宿所氏名ヲ變更シ若ハ其ノ指定ヲ取消サムトスルトキハ小爲替證書及小爲替金受領證書ヲ郵便局所ニ呈示シ其ノ認可ノ證印ヲ受ケヘシ

第四十六條 小爲替ノ受取人爲替金ノ拂渡ヲ請求セムトスルトキハ小爲替證書ニ宿所氏名ヲ記載シ調印ノ上之ヲ拂渡郵便局所ニ差出スヘシ

第四十七條 小爲替證書ニシテ左ノ事項判明ナラサルモノハ毀損汚斑シタルモノトス

一 爲替金額

二 爲替證書ノ記號番號

三 受取人及拂渡郵便局所ノ指定欄

四 爲替證書ノ日附

第四十八條 小爲替證書亡失ノ場合ニ於テハ其ノ發行ノ日ヨリ百五十日ヲ經過

シタル後ニ非ザレハ爲替金ノ拂戻ヲ爲サス但シ相當保證人ヲ立テ請求スルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第四十九條 第二十二條乃至第二十四條第二十六條第三十條第二項及第三十一條ノ規定ハ之ヲ小爲替金ノ拂渡及拂戻ニ又第三十四條第三十五條及第三十八條ノ規定ハ小爲替金拂戻郵便局所ノ變更ニ之ヲ準用ス但シ第三十條第二項ノ場合ニ於テハ尙差出人ノ宿所ヲ記入スヘシ又第三十條第二項第三十一條及第三十五條ノ場合ニ於テハ其ノ料金トシテ小爲替一口ニ付金三錢ヲ納付スヘシ

第五章 再度證書

第五十條 郵便爲替ノ差出人又ハ受取人郵便爲替證書有効期間經過ノ爲再度證書ヲ請求セムトスルトキハ郵便局所ニ於テ再度證書請求書用紙ノ交付ヲ受ケ相當事項ヲ記入シ之ヲ郵便局所ニ差出シ其ノ受領證書ヲ受取ルヘシ前項ノ請求書ニハ有効期間經過ノ郵便爲替證書ヲ添付差出スヘシ

第三類 郵便爲替規則

第五十一條 郵便爲替ノ差出人郵便爲替證書ヲ亡失毀損若ハ汚斑シタル爲再度證書ヲ請求セムトスルトキハ郵便爲替金受領證書ヲ差出シ前條第一項ノ手續ヲ爲スヘシ

郵便爲替ノ受取人前項ノ請求ヲ爲サムトスルトキハ相當保證人ヲ立テ前條第一項ノ手續ヲ爲スヘシ

第五十二條 前二條ノ場合ニ於テハ其ノ料金トシテ郵便爲替一口ニ付通常爲替

又ハ電信爲替ハ金六錢小爲替ハ金三錢ヲ納付スヘシ

第五十三條 再度證書ノ請求者再度證書發行ノ通知ヲ受ケタルトキハ再度證書請求書ノ受領證書ヲ其ノ指定シタル郵便局所ニ差出シ再度證書ノ交付ヲ受ケ

ハシ

第五十四條 小爲替證書ノ亡失ニ因ル再度證書ノ請求ニ對シテハ其ノ發行ノ日ヨリ百五十日ヲ經過シタル後ニ非サレハ再度證書ヲ發セス但シ相當保證人ヲ立テ請求スルトキハ此ノ限ニ在ラス

第六章 郵便爲替金拂渡濟通知

第五十五條 郵便爲替ノ差出人ハ爲替振出ノ際郵便又ハ電信ニ依ル郵便爲替金

拂渡濟通知ヲ請求スルコトヲ得

小爲替差出人前項ノ請求ヲ爲ストキハ其ノ宿所氏名ヲ申出ツヘシ

第五十六條 前條ノ場合ニ於テハ其ノ料金トシテ郵便爲替一口ニ付郵便ニ依ル

モノハ金三錢電信ニ依ルモノハ該電報料金ニ相當スル金額ヲ納付スヘシ

第五十七條 郵便爲替金拂渡濟通知ノ請求アル郵便爲替證書ニハ郵便局所ニ於テ相當證印ヲ押捺シ且小爲替ナルトキハ證書餘白ニ差出人ノ宿所氏名ヲ記入ス

第五十八條 郵便爲替ノ受取人郵便ニ依ル拂渡濟通知ヲ要スル爲替金ヲ受取ル

トキハ郵便爲替金拂渡濟通知書ニ記名調印スヘシ

第五十九條 拂渡郵便局所ニ於テ拂渡濟通知ヲ要スル郵便爲替金ヲ拂渡シタルトキハ郵便ニ依ルモノハ前條ノ通知書ヲ差出人ニ送付シ電信ニ依ルモノハ電

第三類 郵便爲替規則

報ニ依リ振出郵便局所ヲ經テ其ノ旨ヲ差出人ニ通知ス

第七章 郵便爲替金居宅拂

第六十條 郵便爲替ノ差出人又ハ受取人ハ爲替金ノ居宅拂ヲ請求スルコトヲ得
但シ差出人ハ爲替振出後ニ於テ又ハ小爲替受取人ノ爲ニ本條ノ請求ヲ爲スコ
トヲ得ス

郵便爲替金ノ居宅拂渡ヲ取扱フヘキ郵便局所及區域ハ別ニ之ヲ告示ス

第六十一條 前條ノ場合ニ於テハ其料金トシテ郵便爲替一口ニ付通常爲替又ハ

電信爲替ハ金四錢小爲替ハ金二錢ヲ納付スヘシ

第六十二條 郵便爲替振出ノ際爲替金居宅拂ヲ請求シタル郵便爲替證書ニハ郵

便局所ニ於テ相當證明ヲ捺捺ス

第六十三條 郵便爲替ノ受取人爲替金ノ居宅拂ヲ請求セムトスルトキハ其ノ宿
所氏名、郵便爲替種別、證書記號番號及爲替金額ヲ記載シタル居宅拂請求書
ヲ作り之ニ料金相當ノ郵便切手ヲ貼付シ拂渡郵便局所ニ差出スヘシ

前項請求書ハ無料郵便物トシテ之ヲ差出スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ該請求
書封入ノ郵便物封皮ニ爲替事務ト明記スヘシ

第六十四條 郵便爲替金居宅拂ハ差出人ノ請求ニ係ルトキハ其ノ拂渡郵便局所
ニ通常爲替振出請求書又ハ爲替電報ノ到着シタル日ヨリ又受取人ノ請求ニ係
ルトキハ居宅拂請求書受附ノ日ヨリ遅クモ三日以内ニ之ヲ爲ス但シ第二十二
條ノ事故アリテ本條ノ期間内ニ拂渡ヲ爲スコト能ハサルトキハ其ノ旨ヲ受取
人ニ通知ス

第六十五條 郵便爲替ノ受取人不在其ノ他ノ事故ニ依リ居宅拂了スルコト能
ハサルトキハ第二回拂渡月日ヲ豫告シ更ニ其ノ豫告日ニ於テ第二回ノ居宅拂
ヲ爲ス

第六十六條 郵便爲替ノ受取人拂渡郵便局所ノ郵便爲替金居宅拂取扱區域外ニ
轉居シタルトキ郵便爲替證書ノ效用ヲ失ヒタルトキ又ハ第二回居宅拂ノ場合
ニ於テ前條ノ事故ニ依リ爲替金ノ拂渡了スルコト能ハサルトキハ爲替金居

第三類 郵便爲替規則

宅拂ノ請求ハ其ノ效ヲ失フ

第六十七條 郵便爲替ノ受取人ハ自己又ハ差出人ニ於テ爲替金以居宅拂ヲ請求シタルトキハ雖拂渡郵便局所ニ就キ爲替金ノ拂渡ヲ受クルコトヲ妨ケス
第六十八條 本章ノ規定ハ郵便爲替金拂戻ノ場合ニ之ヲ準用ス

附則

第六十九條 本規則ハ明治三十三年十月二日ヨリ之ヲ施行ス
明治十八年(九月)農商務省告示第二十號郵便爲替細則同二十年(六月)遞信省告示第一百十七號郵便小爲替規定同三十二年(十一月)遞信省令第五十二號郵便爲替金居宅拂規則ハ之ヲ廢止ス

●郵便爲替證書線引讓渡規則

(明治三十四年三月二十二日) 遞信省令第十三號

郵便爲替證書線引讓渡規則左ノ通相定メ來四月一日ヨリ施行ス

郵便爲替證書線引讓渡規則

第一條 郵便爲替證書ハ其裏面ニ二條ノ平行線ヲ畫シ銀行ニ對シ任意ニ之ヲ讓渡スルコトヲ得但シ銀行ノ指定ナキモノヲ特ニ銀行ヲ指定セシトスルトキハ其線内ニ銀行ノ名稱ヲ記載スヘシ

讓受銀行ハ前項郵便爲替證書ニシテ銀行ノ指定ナキモノハ引渡ニ依リ又其指定アルモノハ其指定ヲ抹消シ前項ノ規定ニ依リ他ノ銀行ニ之ヲ讓渡スルコトヲ得但シ銀行ノ指定ナキモノヲ特ニ銀行ヲ指定シテ讓渡セントスルトキハ證書裏面ノ平行線内ニ銀行ノ名稱ヲ記載スヘシ

第二條 線引ヲ爲シタル郵便爲替證書ニシテ銀行ノ指定アルモノハ其指定銀行ノ又指定ナキモノハ一般銀行ノ請求ニ應シ之カ拂渡ヲ爲スヘシ

第三條 線引ヲ爲シタル郵便爲替證書ニ對シ銀行ヨリ爲替金ノ拂渡ヲ請求スルトキハ郵便爲替規則第二十條ノ手續ヲ爲サス之カ拂渡ヲ爲スヘシ

第四條 郵便局所ハ交換所組合銀行ノ請求アルトキハ交換所所在地ニ限リ特ニ第三類 郵便爲替證書線引讓渡規則 三百九十九

定ムル交換方法ニ依リ線引ヲ爲シタル郵便爲替證書ニ對シ之カ拂渡ヲ爲スコトアルヘシ

●電信

●電信法

(明治三十三年三月十三日法律第五十九號)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル電信法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

電信法

第一條 電信及電話ハ政府之ヲ管掌ス

第二條 左ニ掲ケル電信又ハ電話ハ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ私設スルコトヲ得

一 一邸宅内若ハ一構内ニ於テ専用ニ供スル爲施設スルモノ

二 鐵道業其ノ他電信電話ノ専用ヲ必要トスル事業ノ爲施設スルモノ

三 公共團體ノ事務執行ノ爲一市區町村内若ハ鄰接市區町村間ニ於テ公署相

互間又ハ一郡市區内ニ於テ公署ト第二級監督官廳トノ間ニ施設スルモノ

四 電報送受ノ目的ヲ以テ一人ノ専用ニ供スル爲電信官署トノ間ニ施設スル

五 一市區町村内若ハ鄰接市區町村間ニ於テ又ハ電信電話ノ連絡ナク且第四

號ニ依ルヲ不適當トスル市區町村間ニ於テ其人又ハ一營業ノ専用ニ供ス

ル爲施設スルモノ

第三條 主務大臣ハ命令ノ定ムル所ニ依リ前條ニ依リ施設シタル電信又ハ電話

ヲ公衆通信又ハ軍事上必要ナル通信ノ用ニ供セシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ主務大臣ハ吏員ヲ派遣シテ其ノ取扱ヲ爲サシムルコトヲ得

第四條 主務大臣ハ公安ノ爲必要ト認ムルトキハ區域ヲ定メ電信又ハ電話ニ依リ通信ヲ停止若ハ制限スルコトヲ得

第五條 電信又ハ電話ニ依リ通信ニシテ公安ヲ妨害シ又ハ風俗ヲ壞亂スルモノ

第三類 電信法

不認タルホキハ主務大臣ノ指定シタル電信官署又ハ電話官署ニ於テ之ヲ停止スルコトヲ得

第六條 職務執行中ノ電信又ハ電話ノ工夫配達人及配達用車馬等ハ道路ニ障礙アリテ通行シ難キ場合ニ於テ牆壁又ハ欄柵ナキ宅地田畑其ノ他ノ場所ヲ通行スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ政府ハ被害者ノ請求ニ因リ其ノ損害ノ賠償ヲ爲スルコトヲ得

第七條 職務執行中ノ電信又ハ電話ノ工夫配達人及配達用舟車馬等事故ニ遭遇シタル場合ニ於テ電信又ハ電話ノ工夫配達人若ハ吏員ヨリ助力ヲ求メラレタル者ニ正當ノ事由ナクシテ之ヲ拒ミ得ス此ノ場合ニ於テハ政府ハ助力者ノ請求ニ因リ相當ノ報酬ヲ爲スルコトヲ得

第八條 職務執行中ノ電信又ハ電話ノ工夫配達人及配達用舟車馬等ニ對シテハ渡津運河道路橋梁其ノ他ノ場所ニ於ケル通行錢ヲ請求スルコトヲ得前項ノ工夫及配達人ハ何時ニテモ渡津ノ出船ヲ請求スルコトヲ得

第九條 政府ハ電信又ハ電話ノ用ニ供スル爲鐵道用地及停車場建物ノ一部ヲ使用シ必要アルトキハ建物ノ建築又ハ改築ヲ命スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ土地建物ノ使用料及建築改築ノ費用ハ請求ニ因リ政府之ヲ支給ス

第十條 政府ハ鐵道用地内ニ電信線又ハ電話線ヲ施設シタルトキハ使用料ヲ支給セズ

第十一條 電信若ハ電話専用ノ物件又ハ現ニ其ノ用ニ供スル物件ハ之ヲ差押フルコトヲ得ス

前項専用ノ物件ハ何等ノ賦課ヲ受クルコトナシ

第十二條 電信又ハ電話取扱ニ關シ電信官署又ハ電話官署ニ對シテ無能力者ノ爲シタル行爲ハ能力者ノ爲シタルモノト看做ス

第十三條 電報ハ命令ヲ以テ定ムル場合ヲ除ク外其ノ宛所ニ配達ス

第十四條 電報ハ命令ヲ以テ定ムル場合ニ限り發信人ノ請求ニ因リ其ノ送達ヲ

停止スルコトヲ得

第十五條 宛所ニ配達シ又ハ受信人ニ交付シ得サル電報ハ之ヲ公示ス其ノ公示ノ日ヨリ三十日間ニ交付ノ請求ナキトキハ之ヲ棄却ス

第十六條 電信官署ニ於テ必要ト認ムルトキハ發信人ニ對シ其ノ電報ニ用井タル祕辭隱語ノ説明ヲ求ムルコトヲ得發信人若シ其ノ説明ヲ拒ミタルトキハ其ノ電報ノ取扱ヲ拒絕ス

第十七條 電信又ハ電話ニ關スル料金及電信又ハ電話ニ依ル通信ノ取扱ニ必要ナル制限ハ命令ノ定ムル所ニ依ル

第十八條 電信又ハ電話ニ關スル既納及過納ノ料金ハ命令ヲ以テ定ムル場合ヲ除クノ外之ヲ還付セス

第十九條 發信人ニ於テ前納スヘキ電信ニ關スル料金ニ不足アルトキハ發信人ヨリ其ノ不足額ノ二倍ノ料金ヲ徴收ス

第二十條 電信又電話ニ關スル料金納付ノ義務ハ其ノ納付スヘキ日ヨリ六箇月

内ニ納付ノ告知ヲ受ケサルニ依リテ消滅ス

第二十一條 電信又ハ電話ニ關スル料金ノ不納金額ハ電信官署又ハ電話官署ニ於テ國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ徴收ス

前項ノ不納金額ニ付電信官署又ハ電話官署ハ國稅ニ次キ先取特權ヲ有ス

第二十二條 電信又ハ電話ニ依ル通信ニシテ電信、電話及郵便、郵便爲替、郵便貯金ノ事務又ハ氣象報告ニ關スルモノハ命令ノ定ムル所ニ依リ無料ト爲ス
コトヲ得

第二十三條 電信又ハ電話ニ關スル料金ハ命令ヲ以テ定ムル場合ヲ除クノ外郵便切手ヲ以テ納付スヘシ

第二十四條 電信又ハ電話ノ取扱ニ關シテハ政府ハ損害賠償ノ責ニ任セス

第二十五條 本法ニ依ル損害賠償又ハ報酬ノ請求權ハ主務大臣ノ指定シタル電信官署又電話官署ニ對シ其ノ事實アリタル日ヨリ三箇月間之ヲ行ハサルニ因リテ消滅ス

第二十六條 電信官署若ハ電話官署ノ賠償又ハ報酬ニ關スル決定ニ對シ不限アル者ハ其ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ三箇月以内ニ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第二十七條 權利ナクシテ電信若ハ電話ヲ私設シタル者又ハ權利ヲ失ヒタル後主務官署ノ指定シタル期間内ニ私設ノ電信若ハ電話ヲ撤去セサル者ハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ電信線又ハ電話線及電信又ハ電話ノ機器ヲ沒收ス

前項ノ場合ニ於テ其ノ電信又ハ電話ヲ他人ノ用ニ供シ因テ金錢物品ヲ收得シタルトキハ之ヲ沒收ス既ニ消費又ハ讓渡シタルトキハ其ノ金額又ハ代價ヲ追徴ス

第一項ノ電信又ハ電話ヲ使用シタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十八條 第三條第一項ニ依ル場合ヲ除クノ外私設ノ電信若ハ電話ヲ他人ノ用ニ供シタル者又ハ其ノ私設者ニアラスシテ之ヲ使用シタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ場合ニ於テ金錢物品ヲ收得シタルトキハ之ヲ沒收ス既ニ消費又ハ讓渡シタルトキハ其ノ金額又ハ代價ヲ追徴ス

第二十九條 第三條第一項ノ場合ニ於テ正當ノ事由ナクシテ電信若ハ電話ノ供用ヲ拒ミ又ハ第九條第一項ノ場合ニ於テ正當ノ事由ナクシテ用地ノ建物ノ使用ヲ拒ミ若ハ建物ノ建築改築ヲ爲ササル者ハ五圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十條 第六條ノ場合ニ於テ通行ヲ拒ミ又ハ第七條ノ場合ニ於テ正當ノ事由ナクシテ助力ヲ拒ミ又ハ第八條ノ場合ニ於テ通行錢ヲ強要シ若ハ正當ノ理由ナクシテ渡津ノ出船ヲ拒ミタル者ハ科料ニ處ス

第三十一條 電信官署又ハ電話官署ノ取扱中ニ係ル通信ノ祕密ヲ侵シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

電信又ハ電話ノ事務ニ從事スル者前項ノ所爲アリタルトキハ本刑ニ一等ヲ加ス

第三類 電信法

本條ノ罪ハ被害者ノ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

第三十二條 不正ノ手段ヲ以テ電信又ハ電話ニ關スル料金ヲ免レ又ハ免レムトシタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

電信又ハ電話ノ事務ニ從事スル者前項ノ所爲アリタルトキハ本刑ニ一等ヲ加

第三十三條 自己若ハ他人ニ利益ヲ與ヘ又ハ他人ニ損害ヲ加フル目的ヲ以テ虛偽ノ電報ヲ發シタル者ハ一月以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

前項ノ場合ニ於テ電信爲替ニ要スヘキ電報ニ係ルトキハ懲役ニ處ス

第三十四條 電信又ハ電話ノ事務ニ從事スル者電信官署又ハ電話官署ノ取扱中ニ係ル電信又ハ電話ノ用紙ニ貼用シタル郵便切手ヲ剝脱シタルトキハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス其ノ未タ消印ヲ爲ササルモノニ關シテハ刑法竊盜

ノ罪ニ照シテ處斷ス

第三十五條 電信官署ノ取扱中ニ係ル電報ヲ正當ノ事由ナクシテ開披、毀損、

隱匿若ハ放棄シタル者又ハ受取人ニ非サル者ニ交付シ若ハ情ヲ知リテ之ヲ受取リタル者又ハ其ノ傳送配達ヲ妨害シタル者ハ一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

電信事務ニ從事スル者前項ノ所爲アリタルトキハ本刑ニ二等ヲ加フ

第三十六條 電信若ハ電話ノ事務ニ從事スル者正當ノ事由ナクシテ其ノ通信ヲ

取扱ヲ拒絶シ又ハ其ノ傳送ヲ遲延セシメタルトキハ四圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十七條 電信線又ハ電話線其ノ他電信又ハ電話ノ機器建造物ヲ毀損シ若ハ通信ヲ障礙シタル者ハ一月以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

過失ニ因リ通信ヲ障礙シタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十八條 電信線若ハ電話線ノ建築修理又ハ線路ノ巡視測量ヲ妨害シタル者ハ一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第三十九條 電信、電話ノ線條若ハ其ノ支持物ニ物品ヲ懸ケ若ハ擲チ又ハ之ニ動物若ハ舟筏ヲ繫キ又ハ之ヲ汚穢シタル者ハ科料ニ處ス
電信又ハ電話線路ノ測量標ヲ毀棄汚穢シタル者亦同シ

第四十條 主務官署ノ指定シタル水底電信線路若ハ水底電話線路ノ區域内ニ於テ船舶ヲ繫留シ又ハ漁業採藻ヲ爲シ若ハ土砂ヲ掘鑿シ又ハ水底電信線若ハ水底電話線ノ號標ニ舟筏ヲ繫キ又ハ其ノ號標ヲ毀棄シタル者ハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

水底電信線若ハ水底電話線ノ布設若ハ修理ノ爲其ノ位置ヲ示スヘキ浮標又ハ其ノ布設若ハ修理ニ從事スル船舶ヨリ主務官署ノ指定シタル距離以内ニ於テ前項ノ所爲ヲ爲シ若ハ航行シタル者亦同シ
第四十一條 第三十二條ヲ除クノ外前數條ニ記載シタル輕罪ヲ犯サムトシテ未

タ遂ケサル者ハ刑法未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

第四十二條 法人ノ業務ニ關シ其ノ代表者又ハ雇人其他ノ從業者前數條ノ罪ヲ犯シタルトキハ其ノ罰則ヲ法人ニ適用ス但シ罰金科料以外ノ刑ニ處スヘキ場合ニ於テハ法人ヲ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

法人ヲ處罰スヘキ場合ニ於テハ法人ノ代表者ヲ以テ被告人トス
法人ヲ處罰スルノ裁判確定シタル日ヨリ罰金ニ關シテハ一月以内科料ニ關シテハ十日以内ニ之ヲ納完セサルトキハ民事訴訟法第六編ノ規定ニ從ヒテ其ノ執行ヲ爲ス此ノ場合ニ於テハ檢事ノ命令ヲ以テ執行力ヲ有スル債務名義ト同一ノ效力アルモノトス

前項ニ依リ執行ヲ爲スニハ執行前裁判ノ送達ヲ爲スコトヲ要セス

第四十三條 公衆通信又ハ第三條第一項ニ依リ現ニ軍事通信ノ用ニ供スル私設ノ電信又ハ電話ニ關シテハ第九條ヲ除クノ外本法中政府ノ施設ニ係ル電信又ハ電話ニ關スル規定ヲ準用ス

第三類 電信法

第四十四條 電信又ハ電話ニ非スト雖通報信號ヲ爲スモノニ關シテハ命令ノ定
ムル所ニ依リ本法ノ規定ヲ準用スルコトヲ得

第四十五條 帝國外國間ニ於ケル電信ニ關シ別ニ法令條約又ハ特許ノ條款ニ明
文アルモノハ各其ノ定ムル所ニ依ル

附則

第四十六條 本法ハ明治三十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

電信條例ハ之ヲ廢止ス

第四十七條 本法施行前電信條例ニ依リ電信又ハ電話私設ノ許可ヲ得タル者ハ
命令ノ定ムル所ニ依リ更ニ許可ノ申請ヲ爲スコトヲ要ス

●電報規則

(明治三十三年九月一日)
遞信省令第四十六號

電報規則左ノ通之ヲ定ム
電報規則

第一章 總別

第二章 電報書法

第三章 字數及語數計算

第四章 料金

第五章 電報差出

第六章 電線託送

第七章 電報配達

第八章 尋問改正及停止

第九章 閱覽正寫

第十章 特別電報

第一節 至急電報

第二節 返信料前納電報

第三節 照校電報

第三類 電報規則

第四節 受信電報

第五節 追尾電報

第六節 再送電報

第七節 同文電報

第八節 外國郵送電報

電報規則

第一章 總則

第一條 電報ヲ別テ左ノ三種トス

一 官報

二 局報

三 私報

第二條 官報トハ官廳及地方自治體ノ公信並外國ノ首長皇族大臣陸海軍將帥、公使、領事ヨリ發スル電報ヲ云フ但シ商人ニシテ領事ノ事務ヲ扱フ者ヨリ發

スル電報ハ官報發出ノ資格アル者ニ宛テ且官用ニ關スルモノニ非サレハ之ヲ官報ト爲サス

第三條 國庫金取扱ニ關シ金庫ヨリ發スル電報並戰時事變ニ際シ日本赤十字社又ハ軍事輸送ノ爲政府ニ使用ニ供スル船舶若ハ鐵道ノ所有者ヨリ發スル電報ハ遞信大臣ノ承認ヲ經テ官報ト爲スコトヲ得官報發送ノ資格ナキモ以下雖モ受取タル官報ヲ呈示シ其ノ返信ヲ官報トシテ發送スルコトヲ得

第四條 第三條 局報トハ電信事務ニ關シ電信局所相互間ニ往復スル電報ヲ云フ前項ノ外電信、電話及郵便、郵便爲替、郵便貯金ノ事務ニ關シ電信電話又ハ郵便官署相互間ニ往復スル電報ハ遞信大臣ニ於テ必要ト認ムルモノニ限リ局報ト爲スコトヲ得郵便爲替金郵便貯金及郵便取立金ノ取扱ニ要スル資本ノ受授ニ關シ金庫相互間ニ往復スル電報亦同シ

第五條 氣象報告ニ關シ中央氣象臺又ハ地方測候所其ノ他ノ觀測所間ニ往復スル電報ハ遞信大臣ノ承認ヲ經テ局報ト爲スコトヲ得

第三類 電報規則

第四條 私報トハ官報及局報ヲ除クノ外諸般ノ電報ヲ云フ

第五條 電報ハ左ノ順序ニ依リ送達スベシ

一 至急官報

二 至急局報

三 至急私報

四 官報

五 局報

六 私報

第六條 同一順位ノ電報ハ受付ノ順序ニ依リ傳送シ申繼及著信局所ニ於テハ受信ノ前後ニ依リ之ヲ傳送配達スベシ

第七條 發信人又ハ受信人ハ電信局所ヲ要求アルベキ其ノ本人ニ相違ナキコトヲ證明スベシ

第三章 電報書法

第八條 電報ノ記載方ヲ別テ和文歐文ノ二トス其ノ各電報ニ用フヘキ文字及記號ハ左ニ掲クルモノニ限ル但シ同一電報中ニ在リテハ特ニ明文アル場合ノ外

和文電報ニ用ウヘキ文字記號ト歐文電報ニ用ウヘキ文字記號トヲ混用スルコトヲ得ス

一 和文電報ニ用ウヘキモノ

片假名

イ

ロ

ハ

ニ

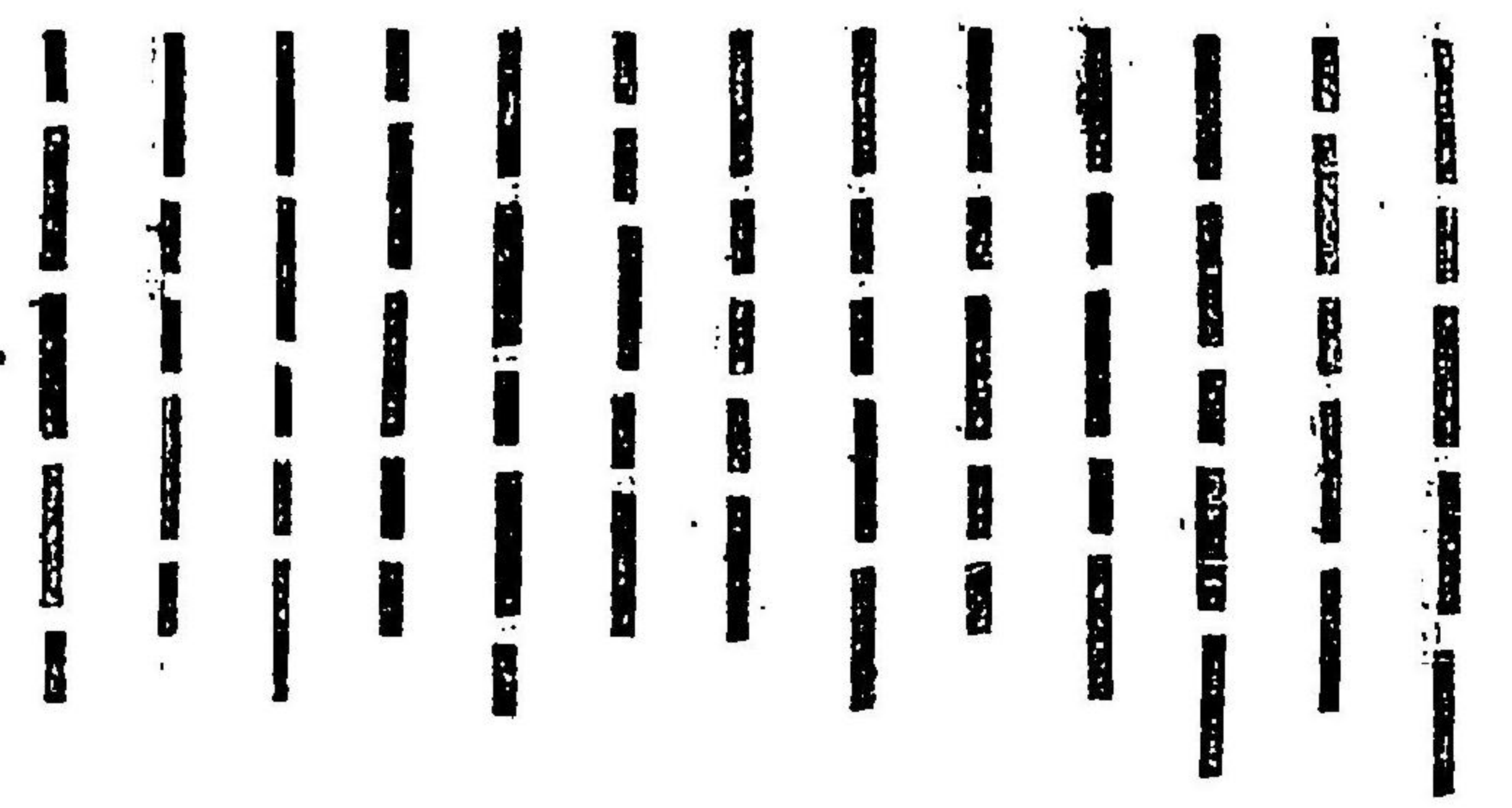
ホ

ヘ

ト

第三類 電報規則

エ
テ
ア
サ
キ
立
ヌ
ミ
シ
エ
ヒ
モ
セ



ス



シ (濁點)



○ (半濁點)



數字

一




二



三



四



五




六



七



八



第三類 電報規則

九

○

記號

長音

句讀點

新章

括弧 ()

小括弧 []

歸除線 /

二 歐文電報ニ用クヘキモノ

羅馬字

A

J	I	H	G	F	E	D	CH	C	B	AA	AA
⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮

第三類 電報規則

第三類 電報規則

6	5	4	3	2	1	亞刺比亞數字	Z	Y	X	W	V	U
⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮

U	T	S	R	Q	P	Ö	O	Ñ	N	M	L	K
⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮

新章	//	略符	/	感符	!	問標	?	重點	:	小讀點	;	讀點	.	終點	.	記號	0	9	8	7	
	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----

連續點一
 括弧 ()
 轉倒 “ ”
 句讀 “ ”
 字下線 _
 刪除線 /

第九條 電報ニ用ウル指定事項ノ略符號ハ左ノ如シ

指定事項	和文略符號	歐文略符號
至急	ウ 大	U R
至急親展	ウ 二	U Q
返信料前納	大 ヲ	R P
返信至急	ナ ウ	R U
返信照校	大 二	R F
照校	△ 二	F C

第三類 電報規則

電報受信報知	ツニ	P	Q
郵便受信報知	ツツ	P	P
追尾	チラ	F	S
再送	ナチ	R	F
同文	ムヨ	F	M
同文連名	ヨイ	M	A
外國郵送	ツタ	P	N
留置	ムナ	F	R
別使配達	アツ	X	P
解船配達	ハホ	B	D
別使料電報報知	マム	X	F
別使料郵便報知	マヨ	X	M
書留郵便配達	ツナ	P	R

無綴配達

ナレ

R O

局待... 親展... 第十條 電報ニ用ウル語辭ハ普通辭祕辭隱語ノ三種トス

第十一條 普通辭トハ和文電報ニ於テハ日本語歐文電報ニ於テハ羅匈語又ハ歐

洲國語ニシテ其次意味ノ通解シ易キモノヲ云フ

羅馬字ヲ以テ記載シタル日本語、電報新書又ハ電報新編ニ依リ記載シタル數

字及聯集及商標又ハ記號トシテ用井タル文字若ハ數字ハ之ヲ普通辭ト見做

ス

第十二條 隱語トハ普通辭ヲ普通ノ意味以外ニ用井其ノ意味ノ通解シ難キモノ

ヲ云フ

歐文ノ隱語ハ一聯綴十字以下ノモノヲ用井日耳曼、英吉利、西班牙、佛蘭西、

荷蘭、伊太利、葡萄牙及羅匈ノ國語中ヨリ採擇スルモノヲ要ス但シ固有名詞

第三類 電報規則

ハ萬國電信總局刊行ノ隱語集ニ掲載スルモノノ外隱語トシテ之ヲ用サルコトヲ得ス

第十三條 祕辭トハ文字又ハ數字ノ孤立若ハ聯集ニシテ其ノ意味ノ通解シ難キモノヲ云フ

前項ノ外普通辭及隱語ニ非サル語辭ハ之ヲ祕辭ト見做ス

歐文ノ祕辭ハ一聯集中文字ト數字トヲ混用スルコトヲ得ス

第十四條 濁點及半濁點ハ片假名ニ附記スルノ外之ヲ用サルコトヲ得ス

第十五條 和文記號ハ片假名又ハ數字歐文記號ハ羅馬字又ハ亞刺比亞數字ニ直接ニ附隨セシムル場合ノ外用サルコトヲ得ス但シ小括弧ハ第十六條ノ場合ノ外之ヲ用サルコトヲ得ス

第十六條 和文電報ニハ商標其ノ他片假名ヲ以テ顯明シ難キモノニ限り羅馬字又ハ亞刺比亞數字及歐文記號ヲ挿入スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ小括弧ヲ以テ之ヲ區別スヘシ

第十七條 羅馬字ヲ以テ綴リタル日本語ノ電報ハ十五字ヲ超エテ聯記シ又ハ一語句ノ中間ニ於テ分割記載スルコトヲ得ス但シ名稱ヲ示ス語ハ之ニ附屬スル助字ト共ニ字數ノ多少ニ拘ハラズ一箇ヲ一聯集トシテ記載スルコトヲ得

二箇以上ノ名稱聯合シタルモノ又ハ名稱ニ他ノ語句ヲ附加シタルモノト雖普通一名稱トシテ用井ラルルモノハ前項但書ノ例ニ據リ記載スルコトヲ得

第十八條 羅馬字ヲ以テ綴リタル日本語ノ電報中ニ外國語又ハ亞刺比亞數字ヲ混用スルトキハ其ノ外國語又ハ亞刺比亞數字ヲ日本語ト聯記スルコトヲ得

第十九條 電報ノ受信人名ハ同一ノ家ニ宛テタル場合ニ限り之ヲ連記スルコトヲ得

第二十條 受信人ノ居所氏名ハ簡明ニ記載スヘシ若其ノ地名ニシテ著明ナラサルカ又ハ他ニ類似ノモノアルトキハ國名又ハ郡區名ヲ附記スヘシ

和文電報ノ居所中不必要ト認ムルモノアルトキハ電信局所ニ於テ之ヲ省略ス

第三類 電報規則

ルコトヲ得

第二十一條 受信人ノ居所氏名ハ第八十六條ニ依リ登記ヲ受ケタル略號ヲ以テ記載スルコトヲ得但シ略號ノ外必ス著信地名ヲ附記スヘシ

一市區町村内ニ二箇以上ノ電信局所アル場合ハ著信地名ノ前ニ尙著信ノ電信局所名ヲ記入シ括弧ヲ以テ之ヲ區劃スヘシ

略號ノ登記ヲ受ケタル人ノ家ニ在ル者ニ宛テタル電報ニハ其ノ略號ニ「方」「氣付」又ハ之ニ相當スル文字ヲ附記シテ其ノ略號ヲ使用スルコトヲ得

第二十二條 電報ノ本文ハ之ヲ記載セサルコトヲ得

第二十三條 發信人ノ自己ノ居所氏名ヲ傳送ヲ要スルトキハ賴信紙中本文ノ末尾ニ之ヲ記載スヘシ但シ其ノ居所氏名ヲ送達紙ノ外部ニ表ハサムトスルトキ歐和文電報ニ在リテハ受信人名所ノ下ニ歐文電報ニ在リテハ受信人名所ノ前ニ之ヲ記載スヘシ

第二十四條 電報ニ記載シタル文字ヲ加除改正シタルトキハ電信局所ニ於テ相當ノ證明ヲ爲サシムルコトアルヘシ

第二十五條 發信人ハ記載シタル指定事項ノ略符號判然セサルモノハ其ノ略符號ヲキ電報下シテ取扱フヘシ

略符號ヲ以テ指定スヘキ事項ヲ普通辭ニテ記載シタルモノハ電信局所ニ於テ之ニ相當スル略符號ニ改書スヘシ

第三十六條 發信人ハ其ノ居所氏名ヲ賴信紙ノ端末ニ記載スヘシ但シ其ノ記載ニ誤リモト下雖電信局所ニ於テ差支ナシト認ムルトキハ之ヲ受付發送スルコトアルヘシ

第三十七條 電報中左ニ記載スルモノハ字數又ハ語數ニ算入ス

- 一 本文
- 二 歐文電報ノ受信人居所氏名
- 三 但シ第二十三條第二項ニ依リ記入シタル著信ノ電信局所名ヲ除ク

第三類 電報規則 四百三十三

三 和文電報ニ連記シタル第二以下ノ受信人氏名並逐書シタル追尾電報又ハ再送電報ノ第二以下ノ居所

四 傳送ヲ要スル發信人居所氏名

五 指定事項

六 第二號乃至第四號ノ居所氏名ニ附屬スル語字

第二十八條 和文ノ數字及記號ハ其ノ一箇ヲ片假名一字ニ計算ス但シ括弧及小括弧ハ各之ヲ片假名三字ニ計算ス

濁點半濁點ヲ附シタル文字ハ之ヲ片假名三字ニ計算ス

第二十九條 和文電報中ニ用井タル羅馬字、亞刺比亞數字及歐文記號ハ其ノ一字又ハ一箇ヲ片假名一字ニ計算ス但シ括弧、轉倒句讀及字下線ハ各之ヲ片假名二字ニ計算ス

第三十條 歐文ノ普通辭ハ一語ノ聯綴十五字ヲ超エサルモノハ之ヲ一語ニ計算シ十五字ヲ超エルモノハ十五字迄毎ニ又之ヲ一語ニ計算ス

第三十一條 歐文電報中ニ用井タル亞刺比亞數字ハ其ノ聯綴五箇ヲ超エサルモノハ之ヲ一語ニ計算シ五箇ヲ超エルモノハ五箇迄毎ニ又之ヲ一語ニ計算ス

第三十二條 歐文電報中羅馬字又ハ亞刺比亞數字ノ孤立シタルモノハ之ヲ一語ニ計算ス

第三十三條 歐文電報中羅馬字ヲ以テ聯記シタル秘辭ハ數字ノ例ニ依リ之ヲ計算ス

第三十四條 普通辭及隱語ヲ混用シタル歐文電報中ノ普通辭ハ一語ノ聯綴十字ヲ超エサルモノハ之ヲ一語ニ計算シ十字ヲ超エルモノハ十字迄毎ニ又之ヲ一語ニ計算ス

第三十五條 第十七條及第十八條ノ規定ニ違ヒ記載シタル語辭ハ數字ノ例ニ依リ之ヲ計算ス

第三十六條 歐文電報中第十一條ニ規定シタル國語ニシテ其ノ用法ニ違ヒ聯綴若ハ省略シタルモノハ正當ノ聯綴方ニ依リ其ノ語數ヲ計算ス

第三類 電報規則

府縣名、國名其ノ他ノ地名、船名、羅馬字ヲ以テ記載シタル數目及字典ニ依
テ証明得ヘキ聯結語ヲ發信人ノ記載スル所ニ從ヒ其ノ語數ヲ計算ス

第三十七條 歐文電報中左ノ文字及記號ハ其ノ一字又ハ一箇ヲ數字一箇ニ計算
ス

一 二 順序數ヲ示ス爲ニ亞刺比亞數字ニ附加シタル羅馬字
二 商標、祕辭又ハ亞刺比亞數字ノ聯集中ニ用井タル諸點及歸除線

第三十八條 歐文電報中連續點ヲ以テ繋キタル語及略符ヲ以テ分チタル語ハ其
ノ毎分語ヲ一語ニ計算ス但シ其ノ連續點及略符ハ之ヲ字數ニ算入セス

第三十九條 歐文電報中ニ用井タル終點、讀點、小讀點、重點、問標、感符、
新章、括弧、轉倒句讀及字下線ハ各之ヲ一語ニ計算ス

第四十條 歐文電報ノ指定事項ニ用井タル略符號ハ各之ヲ一語ニ計算ス其ノ略
符號ニ數字ヲ附記シタル者ノ亦同シ

第四十條 第四章 料金 一 市區町村内ニテ發受スル電報料

一 市區町村内ニテ發受スル電報料

一 和文電報片假名十五字以内 金十錢

一 歐文電報五字以内 加アル毎ニ金三錢ヲ増ス 金十五錢

一 和文電報片假名十五字以内 金二十錢

一 歐文電報五字以内 加アル毎ニ金五錢ヲ増ス

一 和文電報片假名十五字以内 金二十五錢

第四十二條 電報ノ特ニ規定アル場合ノ外其ノ字數又ハ語數ニ應ジテ電報料ヲ
課ス但シ和文電報ニシテ字數ニ算入スヘキ文字記載ナキモノト雖十五字以内

第三類 電報規則

電報料ヲ課ス

第四十三條 第三條ニ規定シタル局報ハ無料トス但シ課金局報ハ此ノ限ニ在ラス
 第四十四條 特別電報料其ノ他特殊ヲ取扱ニ關スル料金ハ別章ニ於テ之ヲ定ム
 第四十五條 電報ニ關スル料金ハ發信ノ際郵便切手ヲ賴信紙ニ貼付シテ納ムヘ
 シ但シ特ニ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第四十六條 電報ニ關スル料金ニ錢位未滿ノ端數ヲ生シタルトキハ之ヲ錢位ニ
 切上ル

第四十七條 左ノ電報ニ關スル料金ハ其ノ納付人ノ請求ニ依リ郵便切手ヲ以テ
 之ヲ還付スル

一 電信局所ヨリ過失ニ因リ受信人ニ到達セサルカ又ハ郵便ニテ到達シ得ヘキ
 時日ヨリ遅レテ到達シタル電報ノ料金但シ第九十七條ニ依リ送達シタルモ
 ノヲ免除ス

二 電信局所ノ過失ニ因リ照校電報ニ誤謬ヲ生シ且用辨ヲ關キタルモノノ料

金但シ尋問ノ電報ニ依リ校正シ得タルモノヲ除ク

第三 電信局所ノ過失ニ依リ徵收シタル過納及誤納ノ電報料金

四 發信人ノ請求ニ依リ配達前停止シタル電報ニ對シ前納シタル返信料、受

信電報料及配達料

五 電報直配達區域内ニテ配達シタル電報又ハ別使解船若ハ書留郵便ヲ以

テ配達ヲ爲サザリシ電報ニ對シ發信人ノ前納シタル配達料

六 前返信料前納證書ヲ以テ發送シタル電報ノ料金前納額ニ滿タサルトキハ其

ノ殘餘ノ料金

第七 第一百十四條ノ場合ニ於テ和文十五字歐文五語ノ通常電報料ヲ控除シ若シ

前納ノ返信料金

八 前返信料前納電報ニ對シ返信料前納證書ヲ發行セザルシトキ又ハ返信料前

納電報ヲ配達シ能ハズシテ發行シタル證書ノ使用期間ヲ過キタルトキ若ハ

交付シタル返信料前納證書ヲ其ノ使用期間ニ使用セザリシトキハ前納シタ

第三類 電報規則

返信料金

九 發信局所ニ於テ傳送前ニ返還シタル電報ノ料金を還付シタル電報ノ料金を還付シタル電信局所ニ
第四十八條 電報ニ關スル料金を還付シテ請求スル其ノ料金を納付シタル電信局所ニ
之ヲ爲スヘシ其ノ期間ハ料金を納付ノ日ヨリ六十日間トス

第四十九條 電報ニ關スル料金を還付シテ請求スル其ノ料金を納付シタル電信局所ニ著信
局所又ハ受信人ノ證明書、誤謬又ハ遲延ニ係ルモノハ其ノ電報送達紙、返信

料前納證書ヲ使用セザリシモノハ其ノ證書ヲ請求書ニ添付スヘシ

第五十條 同文電報ノ内ニ通若シテ多數通ノ料金を還付スルトキハ原信電報料及同
文電報料ヲ併セテ之ヲ總通數ニテ除算シ其得數ヲ以テ還付スヘキ通ノ額トス

第五十一條 二名以上ノ發信人ヨリ差出シタル電報ニ關スル料金を還付ハ其ノ内
以一名ニ之ヲ爲スヘシ

第五十二條 受信人ニ於テ電報ニ關スル料金を追納ヲ要スル電報ノ受取ヲ拒ミ
タルトキ又ハ追納ヲ要スル電報ニシテ居所不明其ノ他ノ事故ニ因リ之ヲ受信

人ニ交付シ能ハサルトキハ發信人ヨリ其ノ料金を徴收ス

第五十三條 電報ニ關スル料金を追納スヘキ發信人又ハ受信人カ二名以上ナル
トキハ其ノ内ノ一名ヨリ之ヲ徴收ス

第五十四條 電報ヲ發送セムトスルトキハ特ニ規定スル場合ノ外電信局所ニ之
ヲ差出スヘシ

第五十五條 郵便ニ依テ電報ヲ差出ストキハ其ノ封筒ノ表面ニ電報在中
記載スヘシ此ノ場合ニ於テハ其ノ普通郵便料ニ限り無料トナスコトヲ得

第五十六條 電信局所ニ電報受付函ノ設置アルトキハ電報取扱時間外ニ限り發
信人ハ之ニ電報ヲ差入ルルコトヲ得(三十六年遞信省令第五十四號ヲ以テ條
中改正)

第五十七條 左ニ掲ケル電報ノ配達ヲ受ケタル者ハ配達ノ時ヨリ五分時間以内
ニ其ノ電報配達人ニ依テ電報ヲ差出スコトヲ得

第三類 電報規則

一 返信料前納電報

二 局待電報

三 別使配達電報

四 解船配達電報

第五十八條 豫納金ヲ納付テ要スル電報ハ第五十五條乃至第五十七條ニ依リ差

出スコトヲ得ス

第五十九條 第五十五條及第五十七條ニ依リ差出シタル電報ハ電信局所ニ到著

シタル時ヲ以テ受付時刻ト爲ス

電報取扱時間外ニ到著シタル前項ノ電報及第五十六條ニ依リ差出シタル電報

ハ總テ次ノ取扱開始時ヲ以テ受付時刻ト爲ス但シ電信局所ニ於テ特ニ時間

ヲ定メテ取扱ヲ爲スヘキ電報ハ第五十七條ニ依リ差出シタル場合ハ前項ノ例

ニ依リ(三十六年遞信省令第五十四號ヲ以テ本項中改正)

第六十條 書法其ノ他ノ規定ニ違背スル爲發送シ得サル電報アルトキハ其ノ事

由テ發信人ニ通知スヘシ

第六十一條 發信人ハ特ニ電報ノ著信局所ヲ指定シ差出スコトヲ得此の場合ニ

於テハ指定事項トシテ其ノ局所名ヲ記載スヘシ

第六十二條 電報ヲ電信局所又ハ郵便局所ニ留置カムトスルトキハ其ノ局所ヲ

肩書シ且留置ノ略符號ヲ以テ指定スヘシ

第六十三條 發信局所ニ在リテ返信ヲ待ツコトヲ受信人ニ知ラシメムトスル電

報ハ局待ノ略符號ヲ以テ指定スヘシ

第六十四條 受信人以外ノ者ノ披見ヲ憚ル電報ハ親展ノ略符號ヲ以テ指定スヘ

シ

第六十五條 封緘セスシテ受信人ニ配達スヘキ電報ハ無緘配達ノ略符號ヲ以テ

指定スヘシ

第六十六條 別使ヲ以テ配達スヘキ電報ハ別使配達ノ略符號ヲ以テ指定スヘシ

第六十七條 別使配達料ハ著信局所ヨリ三里以内ハ金二十錢トシ三里ヲ超ユル

第三類 電報規則

電報ノ受取證書ニハ其ノ受取證書料ニ當ル郵便切手ヲ貼付シ且消印シテ交付スヘシ

第七十四條 發信人ハ一通毎ニ金五錢ヲ納付シテ未タ傳送セサル電報ノ返還ヲ請求スルコトヲ得

第六章 電線託送

第七十五條 電話加入者ハ別ニ告示スル電信局所ニ豫メ届出テ其ノ使用ニ屬スル電話機ニ依リ電報ヲ發受スルコトヲ得

第七十六條 電話加入者ノ使用ニ屬スル電話又ハ郵便電信局電信局ニ連接スル電信電話ヲ以テ電報ヲ發受スルトキハ其ノ電話加入者又ハ電信電話ノ施設者

電線託送料トシテ電報一通毎ニ金三錢ヲ納ムヘシ

第七十七條 前條ニ依リ發スル電報ニシテ其ノ發受局所所在ノ市區町村内ニテ配達シ又ハ該局所ニ於テ前條ノ電話加入者若ハ電信電話ノ施設者ニ送達スルモノハ一市區町村内ニテ發受スルモノト見做シテ料金ヲ課ス

前條ニ依リ受ケヘキ電報ニシテ其ノ發受局所所在ノ市區町村内ニ在ル電信局所ニ賴信スルモノ亦同シ

第七十八條 電線託送電報發受者ノ納ムヘキ電報ニ關スル料金ハ毎月取纏メ翌

月二十日迄ニ其ノ發受局所ニ納付スヘシ但シ一二等郵便電信局電信局ニ在リ

テハ通貨ヲ以テ之ヲ納付スヘシ

第七十九條 郵便電信局電信局ニ連接スル電信電話施設者其ノ施設ノ權利ヲ失

ヒタルトキ又ハ之ヲ廢止シタルトキハ未納ノ電報料金ヲ即納スヘシ

第七十六條ノ届出ヲ爲シタル電話加入者加入ヨリ除名セラレタルトキ又ハ電

線託送電報ノ發受ヲ廢止シタルトキハ發受局所ニ之ヲ届出ツヘシ此ノ場合ニ

於テハ前項ノ規定ヲ適用ス

第八十條 電線託送電報發受者電報ニ關スル料金又ハ私設電信規則第二十條ノ

料金ヲ納付セサルトキハ其ノ滯納ノ期間電線託送電報ヲ發受スルコトヲ得ス

第七章 電報配達
第三類 電報規則

第八十條 電信局所（配達事務ヲ取扱ハサルモノヲ除ク）ヨリ陸上一里以内
及其ノ局所所在ノ市區内ヲ電報直配達區域トス但シ必要承認ムルトキハ其ノ
區域ヲ制限シ又ハ其ノ區域外ノ地ヲ區域内ニ編入スルコトアルヘシ（三十五
年遞信省令第十號三十八年同第十四號ヲ以テ條中改正）

第八十二條 電報直配達區域内ニ配達スル電報ハ配達料ヲ要セス
第八十三條 電報直配達區域外ニ配達スル電報ニシテ配達方ノ指定ナキモノハ
無料ノ普通郵便ヲ以テ送達スヘシ

配達方指定アル電報ト雖受信人移轉等ノ爲更ニ其ノ電報直配達區域外ニ配
達スル事キ亦同シ

第八十四條 電報直配達區域外ニ居住スル者ハ電信局所ニ請求シテ別使、解船
車又ハ書留郵便ヲ以テ自己ニ宛テタル配達方指定ナキ電報ハ配達ヲ受ケルコト
ヲ得但シ之ヲ受ケタルトキハ其ノ配達料ヲ納ムヘシ

第八十五條 別使配達電報ノ受信人ハ其ノ電報受取紙ニ捺印又ハ手署シテ直ニ

之ヲ電報配達人ニ交付スヘシ

第八十六條 受信人自己ノ居所氏名ニ略號ヲ常用セムトシ又ハ電報ヲ受取ルヘ
キ者若シ電報ノ配達場所ヲ特定セムトスルトキハ著信局所ニ請求シテ其ノ略

號又ハ配達先ノ登記ヲ受ケルコトヲ得

第八十七條 受信人電報ノ配達ヲ待タズ著信局所ニ於テ之ヲ受取ラムトスルト
キハ其ノ著信局所ニ請求シテ局渡證票ノ交付ヲ受ケルコトヲ得

第八十八條 局渡證票ノ所持人著信局所ニ於テ電報ヲ受取ラムトスルトキハ其
著信局所ニ於テハ局渡證票ヲ示スヘシ

著信局所ニ於テハ局渡證票ヲ所持スル者ヲ正當受信人ト見做シテ電報ヲ交付
スヘシ

第八十九條 局渡證票ヲ交付シタル者ニ宛テタル電報ト雖著信ノ際證票ヲ所持
スル者出頭セサルトキハ之ヲ配達ニ付スヘシ

第九十條 局渡證票ノ交付ヲ受ケタル者其ノ證票ヲ亡失シタルトキハ直ニ其ノ

第三類 電報規則

第八十二條 電信局所(配達事務ヲ取扱ハサルモノヲ除ク)ヨリ陸上一里以内
及其ノ局所所在ノ市區内ヲ電報直配達區域トス但シ必要ト認ムルトキハ其ノ
區域ヲ制限シ又其ノ區域外ノ地ヲ區域内ニ編入スルコトアルベシ(三十五
年遞信省令第十號三十八年同第十四號ヲ以テ條中改正)

第八十三條 電報直配達區域内ニ配達スル電報ハ配達料ヲ要セス

第八十四條 電報直配達區域外ニ配達スル電報ニシテ配達方ノ指定ナキモノハ
無料ノ普通郵便ヲ以テ送達スヘシ

配達方ヲ指定アル電報ト雖受信人移轉等ノ爲更ニ其ノ電報直配達區域外ニ配
達スル事キ亦同シ

第八十四條 電報直配達區域外ニ居住スル者ハ電信局所ニ請求シテ別使、解船
送文、書留郵便ヲ以テ自己ニ宛テタル配達方指定ナキ電報ノ配達ヲ受クルコト
ヲ得但シ之ヲ受ケタルトキハ其ノ配達料ヲ納ムヘシ

第八十五條 別使配達電報ノ受信人ハ其ノ電報受取紙ニ捺印又ハ手署シテ直ニ

之ヲ電報配達人ニ交付スヘシ

第八十六條 受信人自己ノ居所氏名ニ略號ヲ常用セムトシ又ハ電報ヲ受取ルヘ
キ者若シ電報ノ配達場所ヲ特定セムトスルトキハ著信局所ニ請求シテ其ノ略

號又ハ配達先ノ登記ヲ受クルコトヲ得

第八十七條 受信人電報ノ配達ヲ待タズ著信局所ニ於テ之ヲ受取ラムトスルト

キハ其ノ著信局所ニ請求シテ局渡證票ノ交付ヲ受クルコトヲ得

第八十八條 局渡證票ノ所持人著信局所ニ於テ電報ヲ受取ラムトスルトキハ其
後及時報局渡證票ヲ示スヘシ

著信局所ニ於テハ局渡證票ヲ所持スル者ヲ正當受信人ト見做シテ電報ヲ交付
スヘシ

第八十九條 局渡證票ヲ交付シタル者ニ宛テタル電報ト雖著信ノ際證票ヲ所持
スル者出頭セサルトキハ之ヲ配達ニ付スヘシ

第九十條 局渡證票ノ交付ヲ受ケタル者其ノ證票ヲ亡失シタルトキハ直ニ其ノ

第三類 電報規則

旨交付ヲ受ケタル局所へ届出ツヘシ此ノ證票ハ其ノ報告ヲ受ケタル時ヨリ其ノ效ヲ失フ

局渡證票ヲ亡失シタル者ハ更ニ證票ヲ請求スルコトヲ得

第九十一條 局渡證票不用ニ屬シタルトキハ其ノ交付ヲ受ケタル局所ニ之ヲ返還スヘシ

第九十二條 略號又ハ配達先ノ登記及局渡證票ニ關スル料金並其ノ納付手續ハ別ニ之ヲ定ム

第九十三條 受信人名ヲ連記シタル電報ハ其ノ内ノ一名ニ配達スヘシ

第九十四條 電報ノ誤達ヲ受ケタル者ハ其ノ事由ヲ記載シタル付箋ヲ爲シ直ニ之ヲ著信局所ニ返付スヘシ此ノ場合ニ於テハ無料郵便物トシテ郵便ニ付スルコトヲ得

其ノ電報ヲ開封シタル者ハ更ニ封緘シ尙其ノ事由ヲ付記スヘシ

第九十五條 受信人ニ交付シ能ハサル電報ハ著信局所ニ保管シ置キ其ノ受信人

ノ居所氏名ヲ記載シテ少クトモ七日間之ヲ其ノ局所前ニ揭示スヘシ

第九十六條 電信局所留置電報ハ其ノ留置局所ニ到着シタル日ヨリ三日以内ニ

受信人ニ交付シ能ハサルトキハ前條ノ例ニ依リ之ヲ揭示スヘシ

第九十七條 發信人又ハ受信人ハ其ノ不達ニ歸シタル電報ノ送達ヲ發信局所ニ請求スルコトヲ得其ノ請求期間ハ電報差出ノ日ヨリ六十日間トス

第八章 尋問改正及停止

第九十八條 發信人ハ既ニ差出シタル電報ニ關シ尋問、改正又ハ停止ヲ要スルトキハ之ヲ發信局所ニ請求スルコトヲ得其ノ請求期間ハ發信ノ時ヨリ七十二時間トス

受信人ハ既ニ受取リタル電報ニ關シ尋問ヲ要スルトキハ之ヲ著信局所ニ請求スルコトヲ得其ノ請求期間ハ電報ヲ受取リタル時ヨリ七十二時間トス

第九十九條 發信人ニ於テ其ノ差出シタル電報ニ關シ尋問ヲ請求スルトキハ其ノ尋問ニ要スル電報料ヲ納メ且返信ニ要スル電報料ヲ豫納スシ

第三類 電報規則

第百條 發信人ニ於テ其ノ差出シタル電報ノ改正又ハ停止ヲ請求スルトキハ其ノ尋問ニ要スル電報料ヲ納ムヘシ若其ノ返信ヲ望ムトキハ之ニ要スル電報料ヲ豫納スヘシ

第百一條 尋問、改正又ハ停止ノ爲發信人ノ豫納シタル電報料ハ返信電報ノ字數又ハ語數ニ應シテ精算ス

第百二條 改正電報ニシテ其ノ原信配達後著信局所ニ到達シタルトキハ其ノ事由ヲ受信人ニ通知スヘシ

第百三條 受信人ニ於テ其ノ受取リタル電報ニ關シ尋問ヲ請求スルトキハ其ノ尋問及返信ニ要スル電報料ヲ假納スヘシ

假納ノ電報料ハ尋問及返信電報ノ字數又ハ語數ニ應シテ收納ス但シ電信事務上ノ誤謬ニ因リ尋問ヲ爲スニ至リタル場合ハ之ヲ還付ス

第百四條 本章ニ依リ往復スル電報ハ課金局報トス
第九章 閱覽正寫

第百五條 發信人又ハ受信人ノ電報ノ閱覽又ハ正寫ヲ請求スルコトヲ得但シ請求人ニ於テ該電報搜索上必要ナル事項ヲ示ササルトキハ其請求ニ應セサルコトアルヘシ

第百六條 電報ノ閱覽正寫ハ發信ニ在リテハ其ノ發信局所著信ニ在リテハ其ノ著信局所ニ請求スヘシ

第百七條 電報ノ閱覽又ハ正寫ヲ請求スル者ハ閱覽料トシテ電報一通ニ付金三錢正寫料トシテ和文ハ二百字以内毎ニ金五錢歐文ハ五十語以内毎ニ金十錢ヲ納ムヘシ

電報ノ正寫ニハ其正寫ニ當ル郵便切手ヲ貼付シ且消印シテ交付スヘシ

第十章 特別電報

第一節 至急電報

第百八條 通常電報ニ先チテ傳送ヲ要スル電報ハ至急ノ略符號ヲ以テ指定スヘシ

第三類 電報規則

第九條 至急電報料ハ左ノ如シ

官報 通常電報料ノ二倍

私報 通常電報料ノ三倍

第二節 返信料前納電報

第十條 電報ノ返信ヲ受ケムトスル者ハ其ノ返信ノ電報料ヲ前納スルコトヲ
得其ノ電報ニハ左ノ略符號ヲ以テ指定スヘシ

一 返信料前納ノ略符號

通常電報料ヲ前納スルトキ

二 返信至急ノ略符號

至急電報料ヲ前納スルトキ

三 返信照校ノ略符號

照校電報料ヲ前納スルトキ

和文十五字歐文五語ヲ超エテ返信料ヲ前納スルトキハ前項略符號ノ次ニ其ノ

字數又ハ語數ヲ付記スヘシ

第十一條 返信料前納電報ヲ配達スルトキハ返信料前納アルコトヲ證明スル

爲著信局所ニ於テ返信用紙ニ左ノ事項ヲ記入シ返信料前納證書トシテ電報ト

共ニ之ヲ受信人ニ交付スヘシ

一 返信料前納ノ金額

二 受信人名

三 發信局所名、發信年月日及發信番號

四 證書發行ノ年月日

第十二條 返信料前納證書ノ使用期間ハ其ノ證書發行ノ日ヨリ三十日間トス

此ノ期間ヲ過ケルトキハ使用ノ效ヲ失フ

第十三條 返信料前納電報ノ返信用紙ニ記載シテ差出ス電報ハ證書記載ノ金

額ニ相當スル料金納付済ノモノトシ何レノ電信局所ニ於テモ之ヲ受付發送ス

ヘシ

第三類 電報規則

若其ノ電報ノ料金ニシテ證書記載ノ金額ニ超過スルトキハ其ノ超過額ニ相當
スル郵便切手ヲ返信用紙ニ貼付スヘシ

第百十四條 受信人返信料前納證書ヲ受領スルコトヲ拒ムトキハ其ノ證書ヲ使
用シ著信局所ヨリ發信局所ニ其ノ旨課金局報ヲ以テ報知シ更ニ之ヲ發信人ニ
通知スヘシ

第百十五條 居所不明其ノ他ノ事故ニ依リ返信料前納證書ヲ受信人ニ交付シ能
ハサルトキハ之ヲ著信局所ニ保管ス

著信局所ニ保管シ置キタル返信料前納證書ハ其ノ使用期間ニ受信人ヨリ請求
スルトキ又ハ該期間滿了後三十日以内ニ發信人ヨリ請求スルトキハ之ヲ交付
スヘシ

第百十六條 照校電報ノ發信人ハ電報ノ照校ヲ請求スルコトヲ得其ノ電報ニハ照校ノ略符
號ヲ以テ指定スヘシ

第百十七條 照校電報ハ通信ノ際送受兩局所間ニ於テ其ノ全部ヲ反復校正スル

第百十八條 照校料ハ通常電報料ノ四分ノ一トス

第四節 受信電報

第百十九條 發信人ハ電報ノ受信人ニ到達シタル日時ノ報知ヲ受クルコトヲ得
其ノ電報ハ受信電報トシ左ノ略符號ヲ以テ指定スヘシ

一 電報受信報知ノ略符號

電報ヲ以テ報知ヲ受クルトキ

一 郵便受信報知ノ略符號

郵便ヲ以テ報知ヲ受クルトキ

第百二十條 電報受信報知料ハ一通毎ニ和文ハ十五字歐文ハ五語ノ通常料金ト

シ郵便受信報知料ハ一通毎ニ金三錢トス

第百二十一條 受信電報ヲ受取リタル者ハ電報受取紙ニ受取時刻ヲ記入シ捺印

第三類 電報規則

又ハ手署シテ直ニ之ヲ電報配達人ニ交付スヘシ但シ郵便電信又ハ電話ヲ以テ其ノ送付ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二百二十二條 受信電報ノ發信人ニハ受信人ノ電報ヲ受取リタル日時ヲ報知スヘシ但シ之ヲ送達スルニ郵便ヲ以テシタルトキハ郵便ニ付託セシ日時電信又ハ電話ヲ以テシタルトキハ送信セシ日時ヲ報知スヘシ

第二百二十三條 電報受信報知ノ日時ハ局報ヲ以テ郵便受信報知ノ日時ハ郵便ヲ以テ著信局所ヨリ發信局所ヘ宛テ通知シ發信局所ヨリ更ニ之ヲ發信人ニ報知ス

第二百二十四條 電報直配達區域外ニ居住スル發信人別使、解船又ハ書留郵便ヲ以テ受信日時ノ報知ヲ受ケムトスルトキハ賴信紙ノ餘白ニ其ノ旨ヲ記載シ相當ノ配達料ヲ納付スヘシ

第二百二十五條 受信人ニ於テ受信電報ノ受取ヲ拒ミタルトキ又ハ之ヲ受信人ニ配達シ能ハサルトキハ日時報知ノ代トシテ第二百二十三條及第二百二十四條ノ例

ニ依リ其ノ事由ヲ發信人ニ報知スヘシ

第五節 追尾電報

第二百二十六條 發信人電報ノ追尾傳送ヲ要スルトキハ追尾電報ノ略符號ヲ以テ指定スヘシ

第二百二十七條 追尾電報ノ發信人ハ追尾スヘキ第二以下ノ居所ヲ逐次ニ記載シ又ハ全ク記載セサルコトヲ得

第二百二十八條 追尾電報ハ受信人ノ居所分明ナル限り之ヲ追送スヘシ

前項ノ場合ニ於テ其ノ居所ヲ逐書シタルモノハ其ノ經過スル毎ニ之ヲ削除ス

第二百二十九條 追尾電報ノ追尾ニ關スル料金ハ追尾一回毎ニ新ニ電報ヲ差出シタルモノトシテ計算シ之ヲ受信人ヨリ徵收スヘシ

第二百三十條 左ニ掲クル電報ハ追尾電報トシテ發送スルコトヲ得ス

一 別使料電報報知ヲ要スル電報

二 別使料郵便報知ヲ要スル電報

第三類 電報規則

三 返信料前納電報

四 受信電報

五 同文電報

六 外國郵送電報

第六節 再送電報

第三百一十一條 受信人ノ居所異動等ノ場合ニ於テ其新居所ヘ電報ノ再送ヲ要スルトキハ受信人又ハ宛所ノ者ヨリ之ヲ著信局所ニ請求スルコトヲ得

第三百一十二條 留置電報著信局所ニ保管シ置キタル電報又ハ一日配達ヲ了リタル電報ノ再送請求ノ期間ハ著信ノ時ヨリ七十二時間トス

第三百一十三條 一旦配達ヲ了リタル電報ノ再送ヲ請求スルトキハ其ノ電報送達紙ヲ差出スヘシ若返信料ヲ前納シタルモノナルトキハ其ノ返信料前納證書ヲ返戻スヘシ

第三百一十四條 電報ノ再送ヲ請求スルモノハ其ノ再送スヘキ電報ニ記載シアル

指定事項ノ削除ヲ請求シ又ハ第三百三十條ニ掲グル電信ノ指定事項ヲ除クノ外必要ナル指定事項ノ記入ヲ請求スルコトヲ得

第三百一十五條 返信料前納電報、受信電報又ハ別使料ノ報知ヲ要スル電報ヲ再送スルトキハ其ノ指定事項ヲ削除スヘシ此ノ場合ニ於テハ第三百十四條ノ例ニ依リ返信料前納證書ヲ使用シ又ハ受信報知若ハ別使料報知ノ代トシ電報再送ノ旨ヲ發信人ニ報知スヘシ

第三百一十六條 電報ヲ再送スルトキハ電信局所ニ於テ再送電報ノ略符號ヲ以テ指定スヘシ

第三百一十七條 電信ヲ再送スルトキハ其ノ請求者ヲ再送電報ノ發信人ト看做ス
第三百一十八條 再送電報ノ再送ニ關スル料金ハ第三百二十九條ノ例ニ依リ計算徴收ス

第三百一十七條及第三百一十八條ノ規定ハ再送電報ニ準用ス

第三百一十九條 同文電報ハ之ヲ再送スルコトヲ得ス但シ同文電報ノ指定ヲ削除

第三類 電報規則

四百六十一

シ一通ノ電報トシテ再送ヲ請求スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第七節 同文電報

第四百十條 發信人ハ一市區町村内又ハ著信局所ヲ同クスル地方ニ居住スル數人又ハ數箇所ヘ宛テ同文ノ電報ヲ差出サムトスルトキハ同文電報ト爲スコトヲ得

第四百十一條 同文電報ハ同文ノ略符號ヲ以テ指定シ同文ノ通數ヲ付記スヘシ但シ其ノ通數ハ十通ヲ超ユルコトヲ得ス

同文電報ニシテ其ノ各通ニ各受信人名ヲ連記シ配達スヘキモノハ前項ノ略符號ニ代フル同文連名ノ略符號ヲ以テスヘシ

第四百十二條 同文電報ノ原信ヲ除キタル各通ノ字數又ハ語數ハ總テ之ヲ原信ニ併算ス

第四百十三條 同文電報ニハ原信ヲ除キ其ノ他一通毎ニ同文料トシテ和文ハ金十錢歐文ハ金十五錢ヲ課ス

第四百十四條 至急電報、照校電報又ハ受信電報ヲ同文電報トナストキハ原信ニ各相當ノ略符號ヲ併記シ其ノ至急又ハ照校ノ料金ハ原信一通ニ對シテ之ヲ納メ受信報知料ハ同文ノ通數ニ應シテ之ヲ納ムヘシ

第四百十五條 前條ノ外同文報報ニ他ノ電報ノ指定事項ヲ併用セムトスルトキハ一通毎ニ其ノ相當略符號ヲ記載スヘシ

第八節 外國郵送電報

第四百十六條 外國ヘ郵送スヘキ電報ニハ外國郵送ノ略符號ヲ以テ指定シ其著信局所名ヲ付記スヘシ

第四百十七條 外國郵送電報ノ郵送料ハ一通ニ付金二十錢トス

第四百十八條 外國郵送電報ハ在清國及在韓國本邦郵便局所所在地ニ宛テタルモノノ外歐文電報ニ限ル

附則

第四百十九條 此規則ハ明治三十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

第三類 電報規則

明治十八年(五月)布達第七號電信取扱規則同二十三年(三月)遞信省令第三號
歐文電報略號常用料金額及其ノ納付手續同年(八月)遞信省令第十七號電報局
波規則同年(十一月)遞信省令第二十一號電報配達人ニ電報差出方ヲ依頼スル
規程同二十七年(七月)遞信省令第五號著信局所ヲ指定スル規程同三十年(十
二月)遞信省令第三十三號電話依託電報規則其ノ他此ノ規則ニ抵觸スル規定
ハ之ヲ廢止ス
第五十條 此ノ規則ハ特ニ規定アル場合ヲ除クノ外電線ニ依リ帝國外國間ニ
往復スル電報ニ適用セス

●電信法ヲ無線電信ニ準用ノ件 (明治三十三年十月十日) (遞信省令第七十七號)

電信法ハ第二條第三條第二十八條及第四十三條ヲ除クノ外之ヲ無線電信ニ準用
ス

●電信法第五條ノ電信及電話官署

(明治三十三年九月十一日) (遞信省告示第三百四十二號)

電信法第五條ノ電信官署ハ一等郵便電信局電話官署ハ電話交換局トス

●電信法ニ依ル損害賠償及報酬ノ請求ニ關スル件

(明治三十三年九月) (遞信省令第五十八號)

電信法第六條ニ依ル損害賠償又ハ同法第七條ニ依ル報酬ノ請求ハ其ノ損害ヲ加
ヘ又ハ助力ヲ受ケタル電信又ハ電話ノ工夫配達人ノ屬スル局所ヲ管轄スル一等
郵便電信局又ハ電話交換局ニ之ヲ爲スヘシ
前項ノ請求ヲ爲ス者ハ其ノ請求金額及之ヲ請求スル事由ヲ記載シタル請求書ヲ
差出スヘシ

一等郵便電信局又ハ電話交換局ハ請求ノ當否及金額ヲ審査シ其ノ決定ヲ請求者

第三類 電信法第五條ノ電信及電話官署 電信法 四百六十五
ニ依ル損害賠償及報酬ノ請求ニ關スル件

ニ通知スヘシ

● 軍用電信法

(明治二十七年六月五日)
法律第五號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル軍用電信法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

軍用電信法

第一條 軍用電信ハ電氣機械ヲ以テ軍事ニ關スル通信ヲ爲スモノトス

第二條 軍用電信ハ陸軍大臣又ハ海軍大臣之ヲ管理ス

第三條 軍用電信ヲ分チテ左ノ二種トス

一 固定軍用電信

二 遊動軍用電信

第四條 固定軍用電信ハ要塞、衛戍、軍港、要港、海岸望樓、監視哨所其ノ他

局地ノ防禦ニ必要ナル地點及其ノ各地間通信ノ爲メ之ヲ建設スルモノトス

固定軍用電信ヲ建設スルトキハ明治二十三年法律第五十八號電信線電話線建

設條例ヲ準用ス

第五條 遊動軍用電話ハ事變又ハ演習ニ際シ臨時其ノ必要アル各地ニ建設スル

モノトス

遊動軍用電話ヲ建設スル爲メ民有ノ營造物ヲ徵用シ之ニ必要ノ工事ヲ施スコ

トヲ得其ノ徵用及損害賠償ノ手續並徵用ニ關スル罰例ハ徵發令ヲ準用ス

第六條 軍用電信ハ最寄私設ノ電信取扱所ニ連接シ又私設電線ノ柱木ニ添架ス

ルコトヲ得

第七條 固定軍用電信ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ公眾通信ノ用ニ供スルコト

ヲ得

第八條 刑法第百六十四條及明治十八年第八號布告電信條例第五十八條乃至第

六十三條及第七十一條ハ之ヲ軍用電信ニ適用ス

第九條 軍用電信ノ事務ニ從事スル者軍用電信ニ關シ電信條例第五十八條乃至

第六十三條ノ罪ヲ犯シタルトキハ各本刑ニ照シ一等ヲ加フ又通信ノ旨趣ヲ漏

第三類 軍用電信法

泄シタルトキハ四月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第十條 軍用電信ニ關シ電信條例第五十八條及第六十二條ノ罪ヲ犯サントシテ未ダ遂ケサル者ハ刑法未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

●電話交換規則

(明治三十年十二月一日 遞信省令第三十一號)

電話交換規則左ノ通相定ム

電話交換規則

第一章 總則

第一條 此規則ニ於テ電話交換局ト稱スルハ電話交換支局ヲ包含ス

第二條 電話加入區域ハ普通加入區域及特別加入區域ノ二種トシ各電話交換局ノ電話加入區域ハ別ニ之ヲ定ム

第二章 電話加入

第三條 電信交換ニ加入セムトスル者ハ一加入毎ニ加入申込書(第一號書式)

ヲ電話交換局ニ差出スヘシ

他人ノ所有ニ係ル家屋ニ電話機ヲ設置セムトスルトキハ其家屋所有者ノ承諾書(第二號書式)ヲ加入申込書ニ添附スヘシ

電話加入ハ二人以上共同シテ之ヲ爲スコトヲ得ス(三十二年遞信省令第二號ヲ以テ第四條ヲ本條ノ第三項トス)

第四條 加入申込者又ハ加入者其使用ニ供スル電話機ニ依リ特ニ指定スル長距離電話通信ヲ爲サムトスルトキハ其申込書(第十二號書式)ヲ電話交換局ニ

差出スヘシ

前項ノ申込ヲ取消シ又ハ電話通信ヲ廢止セムトスルトキハ其請求書(第十三號書式)ヲ電話交換局ニ差出スヘシ(同上省令ヲ以テ追加)

第五條 電話交換局ニ於テ加入申込書又ハ長距離電話申込書ヲ受理シタルトキハ之ヲ原簿ニ登記シ其申込順番ヲ申込者ニ通知スヘシ(同上省令ヲ以テ改正)

第六條 電話開通ノ順序ヲ加入申込ノ順番ニ據ル但官廳公署及公共事業ノ用ニ

第三類 電話交換規則

供スルモノニシテ急遽開通ノ必要アルトキ又ハ工事施行上順序ニ據リ難キモノアルトキハ其順序ヲ變更スルコトアルヘシ（三十二年遞信省令第二十七號ヲ以テ改正）

第七條 加入申込者電話機ヲ設置スヘキ場所ヲ變更セムトスルトキハ其請求書（第三號書式）ヲ電話交換局ニ差出スヘシ但他人ノ所有ニ係ル家屋ニ設置セムトスルトキハ其家屋所有者ノ承諾書（第二號書式）ヲ請求書ニ添附スヘシ

第八條 加入申込者卓上電話機ノ設置ヲ請求セムトスルトキハ其請求書（第四號書式）ヲ電話交換局ニ差出スヘシ

加入者卓上電話機ヲ普通電話機ニ又普通電話機ヲ卓上電話機ニ變更セムトスルトキハ其請求書（第五號書式）ヲ電話交換局ニ差出スヘシ

第九條 加入申込者又ハ加入者左記各號ノ裝置ヲ爲サントスルトキハ其請求書ヲ電話交換局ニ差出スヘシ但第三號ノ場合ハ加入申込者又ハ加入者私設ノ線條機械及附屬物品ニ關シテハ電話交換局ノ認可ヲ經ヘシ又其維持並交換取扱

方法ハ電話交換局ニ於テ指示スルコトアルヘシ（三十五年遞信省令第二十五號ヲ以テ改正）

一 加入電話機ニ受話器ヲ増設セントスルトキ

二 加入電話機設置場所同一戸内ニ於テ同一回線中ニ電話機ヲ増設セントスルトキ

三 加入電話機設置場所同一ナル自己ノ邸宅構内ニ於テ電信法第二條第一號及明治三十三年（九月）遞信省令第五十一號官廳用電信電話規程第一條第一號ニ依リ施設シタル電話機ヲ交換線ニ接續セントスルトキ

四 同一邸宅構内ニ二加入以上ノ電話機ヲ有スル加入者カ其電話機ニ共通スル電話機ヲ増設セントスルトキ

五 前各號ニ依リ増設シ又ハ接續シタル電話機受話器若ハ電鈴ヲ撤去シ及接續ヲ變更又ハ廢止セントスルトキ

第十條 加入申込者其申込ヲ取消サムトスルトキハ其請求書（第八號書式）ヲ第三類ノ電話交換規則

電話交換局ニ差出スヘシ

第十一條 加入者ノ加入期間ハ電話開通ノ日ヨリ起算シ滿一年トス但第二十四條ニ掲クル一期ノ中途ニ於テ開通シタルトキハ該期末日ヲテノ日數ヲ附加ス前項ノ加入期間以後ハ毎三月ヲ以テ加入期間トス

第十二條 加入者其加入ヲ取消サムトスルトキハ當該加入期ノ末日ヨリ少クトモ十五日以前ニ其請求書(第九號書式)ヲ電話交換局ニ差出スヘシ此請求書ヲ爲ササル者ハ次期ノ加入ヲ繼續スルモノト見做スヘシ

第十三條 加入者其使用ニ供スル電話機及其附屬物品ヲ他ニ移轉セムトスルトキハ其請求書(第三號書式)ヲ電話交換局ニ差出スヘシ但他人ノ所有ニ係ル家屋ニ移轉セムトスルトキハ其家屋所有者ノ承諾書(第二號書式)ヲ請求書ニ添附スヘシ

第十四條 加入者自己ノ加入ヲ他人へ讓渡サムトスルトキハ當事者ノ連署シタル請求書(第十號書式)ヲ電話交換局ニ差出スヘシ

加入者死亡又ハ失踪ノ場合ニ於テ其加入ヲ繼承セムトスル者ハ其相續人又ハ管理人タルノ證明書ヲ添へ其請求書(第十一號書式)ヲ電話交換局ニ差出スヘシ

前二項ノ規定ハ加入申込ノ讓渡又ハ繼承ノ場合ニ之ヲ準用ス(三十一年遞信省令第六號ヲ以テ追加)

第十五條 第六條但書ニ據リ電話機ノ設置ヲ許可シタル加入申込ヲ他人ニ讓渡ストキハ其許可ヲ取消スヘシ但其既ニ設置セルモノハ之ヲ讓渡スコトヲ得ス(同省令ヲ以テ改正)

第十六條 電話加入申込又ハ加入ノ讓受人又ハ繼承人ハ其加入申込又ハ加入ニ屬スル權利義務ヲ繼承ス(同省令ヲ以テ條中改正)

第三章 電話通信

第十七條 加入者ハ其使用ニ供スル電話機ニ依リ左ノ通話ヲ爲スコトヲ得但特ニ指定スル長距離ノ通話ハ其通話ヲ爲シ得ル加入者相互ノ間ニ限ル(三十二

第三類 電話交換規則

遞信省令第二號三十五年同第二十五號ヲ以テ條中追加)

- 一 同一電話交換局ニ屬スル加入者トノ通話
- 二 他ノ電話交換局ニ屬スル加入者トノ通話
- 三 第十八條ニ據リ電話所ニ來リ通話スル者トノ通話

第九條第三號ノ裝置ヲ爲シタル加入者ハ私設電話機ニ依リ前項ノ通話ヲ爲スコトヲ得

第十八條 電信所ニ來ル者ハ電話通信心得書ニ據リ同一電話交換局ニ屬スル加入者又ハ他ノ電話交換局ニ屬スル加入者トノ通話ヲ爲スコトヲ得但特ニ指定スル長距離ノ通話ハ加入者カ其通話ヲ爲シ得ル場合ニ限ル(三十二年遞信省令第二號ヲ以テ但書追加)

第十九條 左ノ通話ハ每五分時間マテヲ以テ一通話時トス

- 一 電話所ニ來ル者ト加入者ノ通話
- 二 所屬電話交換局ヲ異ニスル加入者相互ノ通話

本條ノ通話ハ一通話時ヲ超エテ繼續スルコトヲ得ス但他ニ通話請求者ナキトハ此限ニ在ラズ

第四章 料金

第二十條 加入申込者ハ加入登記料ヲ納ムヘシ

特別加入區域ニ屬スヘキ加入申込者ハ加入登記料ノ外電話線接續料ヲ納ムヘシ

第二十一條 加入者ハ電話使用料ヲ納ムヘシ

特別加入區域ニ屬スル加入者又ハ第四條ニ據リ通話ヲ爲ス加入者又ハ第八條ニ據リ卓上電話機ヲ設置シ若ハ第九條ニ據リ機械ヲ増設シ又ハ私設電話機ヲ接續シタル加入者ハ電信使用料ノ外附加使用料ヲ納ムヘシ(三十二年遞信省令第二號三十五年同第二十五號ヲ以テ本項中追加)

第二十二條 加入者第十三條ノ請求ヲ爲ストキハ機械移轉料ヲ納ムヘシ

加入者特別加入區域内ニ於テ又ハ普通加入區域内ヨリ特別加入區域内ニ機械

第三類 電話交換規則

ノ移轉ヲ請求スルトキハ機械移轉料ノ外電話接續料ヲ納ムヘシ

第二十三條 電話所ニ來リ通話ヲ爲ス者ハ電話料ヲ納ムヘシ

所屬電話交換局ヲ異ニスル加入者相互ノ通話ヲ爲シタルトキハ其請求者ヨリ

電話料ヲ納ムヘシ

第二十四條 電話使用料及附加使用料ハ年額ヲ四分シ左ニ掲グル四期ノ別ニ從

ヒ每一期分ヲ其期ノ初月一日ヨリ十日マテニ電話交換局ニ納付スヘシ(三十

一年遞信省令第五號ヲ以テ改正)

第一期 四月一日ヨリ六月三十日マテ

第二期 七月一日ヨリ九月三十日マテ

第三期 十月一日ヨリ十二月三十一日マテ

第四期 一月一日ヨリ三月三十一日マテ

第二十五條 加入初期ノ電話使用料及附加使用料ハ電話開通ノ日ヨリ其期ノ末

日ニ至ルマテノ日數ニ應シ年額金ノ日割ヲ以テ開通ノ日ヨリ十五日以内ニ電

話交換局ニ之ヲ納付スヘシ其加入後新ニ附加使用料ヲ納ムヘキ場合ノ生シタルトキ亦同シ

第二十六條 加入者第十一條第一項ノ加入期間内ニ於テ加入ヲ取消シタルトキ

又ハ加入ヨリ除名セラレタルトキハ其期間内ニ屬スル電話使用料及附加使用

料ノ未納額ヲ一時ニ納付スヘシ

加入者第十二條ノ取消請求期限ヲ過キテ加入取消ノ請求ヲ爲シタルトキ又ハ

第三十二條第二項ノ場合ニ於テ當該加入期ノ末日ヨリ少クトモ十五日以前ニ

第四條第二項又ハ第八條第二項又ハ第九條第五號若ハ第十三條ノ請求ヲ爲サ

サルトキハ其次期ニ屬スル電話使用料及附加使用料ヲ納付スヘシ(三十二年

遞信省令第二號三十五年同第二十五號ヲ以テ本項中改正)

第二十七條 電話料ハ左ノ區別ニ從ヒ之ヲ納付スヘシ

一 電話所ニ來ル者ハ一通話時ノ料金ヲ其電話所ニ前納シ一通話時以上ニ涉

リタルトキハ通話ヲ終リタル後其未納料金ヲ納付スヘシ

第三類 電話交換規則

一 加入者ハ一月分取纏メ翌月二十日マテニ電話交換局ニ納付スヘシ

第二十八條 加入登記料ハ加入申込ヲ爲ストキ電話線接續料及機械移轉料ハ電話交換局ノ指定スル期日マテニ電話交換局ニ之ヲ納付スヘシ

第二十九條 加入登記料、電話使用料、附加使用料、電話料、電話線接續料及機械移轉料ノ金額ハ別ニ之ヲ定ム

第三十條 左ノ料金ハ郵便切手ヲ以テ之ヲ納付スヘシ(三十一年遞信省令第五號ヲ以テ改正)

一 加入登記料

一 電話所ニ於テ納付スヘキ電話料

第三十一條 加入登記料、電話線接續料及機械移轉料ハ其申込又ハ請求ヲ取消シタルトキト雖之ヲ還付セス

電話所ニ來ル者ノ前納シタル電電話モ既ニ郵便切手ニ消印シタル後ハ之ヲ還付セス

第三十二條 加入者第十一條第二項ノ加入期間内ニ於テ加入ヲ取消シ又ハ加入ヨリ除名セラレタルトキト雖其期間内ニ屬スル電話使用料及附加使用料ハ之ヲ免除セシ

特ニ指定スル長距離電話通信ノ廢止又ハ電話機及其附屬物品ノ移轉又ハ増設機械ノ撤去又ハ電話機ノ變更若ハ私設電話機接續ノ廢止ニ因リ附加使用料ヲ消滅又ハ減少スヘキ場合ニ於テモ其期ノ附加使用料ハ之ヲ免除セシ(三十五年遞信省令第二十五號ヲ以テ本項改正)

第四十條ニ據リ通話ヲ停止セラレタルトキモ亦其停止期間ノ電話使用料及附加使用料ヲ免除セシ

第三十三條 加入者ノ懈怠過失又ハ故意ニ因ラスシテ電話不通ニ至リ其日數十五日以上ニ亘ルトキハ不通期間ノ電話使用料及附加使用料ヲ徵收セス若既納ノ電話使用料及附加使用料アリタルトキハ加入者ノ請求ニ依リ其不通ノ日數ニ應シ年額金ノ日割ヲ以テ之ヲ還付スヘシ

第三類 電話交換規則

前項不通ノ日數ハ電話交換局ニ於テ其事故ヲ認メタル日ヨリ起算ス

第五章 雜則

第三十四條 加入者ノ使用ニ供スル電話線、電話機及其附屬物品ハ電話交換局ニ於テ之ヲ設備ス

第三十五條 電話交換局ハ時々吏員又ハ其所屬員ヲ派遣シ加入者ノ使用ニ供スル電話機設置ノ邸宅構内ニ在ル電話線、電話機及其附屬物品ヲ點檢セシムヘシ此場合ニ於テハ其身分ヲ證明スヘキ證票ヲ携帯セシムヘシ

第三十六條 電話交換局ハ加入者ノ使用ニ供スル電話線、電話機及其附屬物品ヲ撤去シ又ハ移轉スル場合ニ於テ其電線、機械及物品ノ裝置シアリタル造營物ヲ原形ニ修復スルノ責ニ任セス

第三十七條 加入者ノ懈怠過失又ハ故意ニ因リ其使用ニ供スル電話機設置ノ邸宅構内ニ在ル電話線、電話機及其附屬物品ヲ亡失毀損シタルトキ又ハ第三十九條ニ違背セル所爲ニ依リ復舊工事ヲ要スルトキハ加入者ニ於テ其補充又ハ

修繕ニ要スル費用ヲ辨償スヘシ

第三十八條 加入者ハ報酬ヲ受ケテ其使用ニ供スル電話機ヲ他人ノ用ニ供シ又ハ報酬ヲ受クル者ニ之ヲ貸與スヘカラス

第三十九條 加入者ハ其使用ニ供スル電話機設置ノ邸宅構内ニ在ル電話線、電話機及其附屬物品ヲ移轉シ又ハ其裝置法ヲ變更シ若ハ之ヲ分解スヘカラス但水火其他ノ事變ニ際シ保護ノ目的ニ出テタル場合ハ此限ニ在ラス

加入者ハ其使用ニ供スル電話機設置ノ邸宅構内ニ在ル電話線、電話機及其附屬物品ニ他ノ線條、機械等ヲ連結スヘラス

第四十條 加入者電話使用料、附加使用料及電話料ヲ規定ノ期日マテニ納付セサルトキ又ハ第三十七條ノ補修費ヲ辨償セサルトキハ其滯納ノ期間通話ヲ停止スヘシ

加入者前條第一項ニ違背スルノ所爲アリタルトキ又ハ故ナク第三十五條ノ點檢ヲ拒ミタルトキハ七日以内ノ期間通話ヲ停止スルコトアルヘシ

第三類 電話交換規則

第九條第三號ニ依ル加入者猥リニ其接續ヲ變更シ若ハ他ノ線條機械等ヲ連結シタルトキ及故意又ハ過失ニ因リ通話ヲ不良ナラシメタルトキハ其接續ヲ停止スルコトアルヘシ(三十五年遞信省令第二十五號ヲ以テ本項追加)

第四十一條 加入者第三十八條ニ違背スルノ所爲アリタルトキ又ハ前條第一項ニ據リ通話ヲ停止セラレタル日ヨリ三十日以内ニ滯納ノ金額ヲ納付セサルトキハ其加入者ヲ加入ヨリ除名スヘシ

加入者第三十九條第二項ニ違背スルノ所爲アリタルトキ又ハ前條第二項ニ據リ一年三回以上通話ヲ停止セラレタルトキハ其加入者ヲ加入ヨリ除名スルコトアルヘシ

第四十二條 前條ニ據リ加入ヨリ除名セラレタル者ハ其除名ノ日ヨリ滿一年ヲ經過スルニアラサレハ再ヒ同一ノ電話交換局ニ加入申込又ハ加入ヲ爲スヲ得ス(三十一年遞信省令第六號ヲ以テ條中改正)

第四十四條 電話交換局ハ電話交換ヨリ生スル一切ノ事故ニ對シ其責ニ任セ

ス

第六章 附則

第四十四條 此規則施行前ニ開通シタル電話機及電鈴ノ使用料ハ明治三十一年三月三十一日マテ尙明治二十三年遞信省令第八號同年遞信省令第十三號明治二十五年遞信省令第九號明治二十九年遞信省令第十二號及明治二十三年遞信省令第七號電話交換規則第十三條ノ金額ニ據ル

第四十五條 明治二十三年遞信省令第七號電話交換規則ニ據リ加入シタル加入者ハ第十一條及第十二條ノ期限ニ拘ハラズ明治三十一年三月三十一日マテニ加入取消ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第四十六條 此規則施行前ニ加入申込ヲ爲シタル者ノ電話開通ノ順序ハ工事上已ヲ得サル場合ニ於テハ明治三十一年三月三十一日マテニ開通ノモノヲ限リ其申込ノ順番ニ據ラサルコトアルヘシ

第四十七條 明治二十三年遞信省令第七號電話交換規則ハ此規則施行ノ日ヨリ

第三類 電話交換規則

廢止
(舊式略ス)

●電話交換規則及電話呼出規程ニ依ル料金額

(明治三十年十二月一日)
逓信省令第三十二號

明治三十年(十二月)逓信省令第三十二號電話交換規則第二十九條及電話呼出規程第三條ノ料金額ヲ定ムルコト左ノ如シ

- 一 加入登記料及電話使用料(略ス)
- 二 附加使用料

特別加入 年額 特別加入區域内ノ町 金二圓
 程一町マテ毎ニ

但町數ノ計算方ハ普通加入區域ヲ距ル電話線路ノ町程ト最近道路ノ町程トヲ比較シ何レカ其距離ノ短キモノニ據ル

一 長距離電話 年額 一箇毎ニ 金六圓

一 卓上電話機 同 同 金六圓

一 増設機械 年額 一箇毎ニ 金十二圓

普通電話機 年額 一箇毎ニ 金十八圓

卓上電話機 年額 一箇毎ニ 金十八圓

受話機 年額 一箇毎ニ 筒形又ハ時計形 金三圓
 或 頭 金八圓

電 鈴 年額 一箇毎ニ 金三圓
 一 私設電話機接續(年額私設電話機一箇毎ニ) 金十二圓

三 電話料及電話呼出料(略ス) 金十圓

四 電話線接續料 特別加入區域内ノ町程一町マテ毎ニ 金十圓
 但町數ノ計算方ハ特別加入區域内ニ於ケル電話新設線路ノ町程ト普通加入區域ヲ距ル最近道路ノ町程トヲ比較シ何レカ其距離ノ短キモノニ據
 第三類 電話交換規則及電話呼出規程ニ依ル料金 四百八十五圓

五 機械移轉料

- 一 同一邸宅構内ノ移轉 金一圓
- 一 同一邸宅構内ニ於テ電鈴及附屬物品ノミノ移轉 金一圓
- 一 他ノ邸宅構内ヘ移轉 金十五圓

●電話呼出規程 (明治三十三年八月二十三日 遞信省令第四十號)

電話呼出規程左ノ通相定メ明治三十三年九月十二日ヨリ施行ス

電話呼出規程

第一條 電話加入者及特設電話加入者ハ別ニ告示スル地域内ニ在ル者及特ニ指定シタル場合ニ於テハ其ノ地域港灣内ニ碇泊ノ艦船中ニ在ル者ヲ電話所ニ呼出シ通話スル爲所屬電話局所ニ其ノ請求ヲ爲スコトヲ得 (三十七年遞信省令第三十一號ヲ以テ本項改正)

電話所ニ來ル者モ亦前項ノ請求ヲ其ノ電話所ニ爲スコトヲ得

第二條 前條ノ請求ヲ爲ス者ハ電話呼出料及一通話時ノ電話料ヲ納ムヘシ

電話所ニ來ルモノハ前項料金ニ相當スル郵便切手ヲ呼出請求券ニ貼附シ差出スヘシ (三十八年遞信省令第三十五號ヲ以テ改正)

電話加入者及特設電話加入者ハ一箇月分取纏メ翌月二十日迄ニ通貨ヲ以テ納付スヘシ (三十七年遞信省令第六十五號ヲ以テ改正)

第三條 電話呼出料及電話料ノ金額ハ別ニ之ヲ定ム

第四條 電話呼出ノ請求アルトキハ其ノ呼出地域内ニ在ル電話所ニ於テ呼出通話券ニ左ノ事項ヲ記入シ電話料前納證書トシテ之ヲ被呼者ニ交付スヘシ (三十五年遞信省令第四十五號ヲ以テ條中改正)

一 電話料前納ノ金額

二 被呼者ノ居所及氏名

三 請求者ノ氏名及請求ヲ爲シタル加入者又ハ請求ヲ受ケタル電話所ノ所屬

第三類 電話呼出規程

電話交換局若ハ電話交換支局名並電話番号

四 通話ヲ爲ス者ノ氏名

五 被呼者ノ電話所ニ來ルヘキ時間ノ指定アルトキハ其ノ時間

六 證書ノ發行所名及發行年月日

第五條 電話料前納證書ヲ受領シタル者ハ其證書記載ノ金額ニ相當スル電話料

納付済ノモノトシ何レノ電話所ニ於テモ呼出通話券ヲ以テ通話スルコトヲ得

第六條 呼出通話券ヲ以テ通話スル者ハ其ノ一通話時ノ電話料ニシテ證書記載

ノ金額ニ超過スルトキハ其ノ超過額ニ相當スル郵便切手ヲ呼出通話券ニ貼付

シ差出スヘシ若シ一通話時以上ニ涉リ電話料ニ不足ヲ生シタルトキハ通話ヲ終

リタル後其ノ不足額ニ相當スル郵便切手ヲ納ムヘシ

第七條 電話料前納證書ノ使用期限ハ發行ノ日ヨリ七日以内トス此ノ期限ヲ過

ケルトキハ使用ノ效ヲ失フ

第八條 電話呼出請求ニ對シ其ノ呼出手續著手前呼出請求人ヨリ其ノ請求ノ取

消ヲ申出タルトキハ之ニ應スヘシ但シ第二條第二項ノ場合ハ其ノ呼出請求券
ヲ郵便切手未消印ノ儘返付シ同條第三項ノ場合ハ料金ヲ徴收セス(三十八年
逓信省令第三十五號ヲ以テ改正)

第九條 (同上ヲ以テ削除)

第十條 居所不分明其ノ他ノ事故ニ依リ電話料前納證書ヲ被呼者ニ交付スルコ

ト能ハサルトキハ其ノ局所氏名ヲ記載シテ三日ヨリ少カラサル間之ヲ著信電

話所前ニ揭示スヘシ

第十一條 被呼者ニ交付スルコト能ハサル電話料前納證書ハ發行ノ日ヨリ七日

間之ヲ著信電話所ニ留置クヘシ此ノ期限内ハ被呼者ヨリ其ノ交付ヲ請求スル

コトヲ得

第十二條 呼出請求者ハ被呼者ノ居所氏名又ハ呼出時間ニ改正ヲ要スルトキハ

呼出請求ノ時ヨリ二十四時間以内ニ之ヲ其ノ請求局所ニ請求スルコトヲ得

前項ノ改正ヲ請求スル者ハ第二條第二項ノ例ニ依リ電話呼出料ヲ納ムヘシ

第三類 電話呼出規程

第十三條 左記各號ノ料金其納付人ヨリ還付ノ請求アリタルトキハ郵便切手ヲ以テ納付シタルモノハ郵便切手通貨ヲ以テ納付シタルモノハ通貨ヲ以テ之ヲ還付スヘシ(三十五年遞信省令第四十三號三十七年同第三十一號第六十五號三十八年同第三十五號ヲ以テ改正)

一 電話局所ノ過失ニ因リ電話料前納證書ヲ被呼者ニ交付セサルトキハ其ノ電話料及電話呼出料

二 電話局所ノ過失ニ因リ徴收シタル電話料及電話呼出料

三 居所不分明其ノ他ノ事故ニ因リ電話料前納證書ヲ被呼者ニ交付スルコト能ハサルトキ及其ノ使用期間中ニ使用セザリシトキノ電話料

四 艦船中ニ在ル者ニ交付スヘキ電話料前納證書ヲ艦船ノ出帆又ハ被呼者居所ノ改正等ニ依リ當初指定ノ艦船ニ配達セザリシトキノ増納呼出料

前項料金還付ノ請求ハ其ノ呼出請求ヲ爲シタル郵便局(電話局所ナルトキハ其ノ所管郵便局)ニ之ヲ爲スヘシ其ノ期間ハ呼出請求ヲ爲シタル日ヨリ三十

日間トス但シ電話料前納證書ニシテ被呼者ニ交付シタルモノナルトキハ之ヲ請求書ニ添附スヘシ

第十四條 明治三十年(十二月)遞信省令第三十一號電話交換規則第四十條乃至

第四十二條ノ規定ハ本規程ニ依リ加入者ノ納ムヘキ料金滞納ノ場合ニモ之ヲ準用ス

● 特設電話規則

(明治三十八年四月二十日 遞信省令第三十四號)

特設電話規則左ノ通定ム

特設電話規則

第一條 特ニ指定スル郵便、電信、電話局所(以下單ニ局所トス)ノ電話ニ加入セんとスルモノハ本規則ノ定ムル所ニヨリ加入ヲナスコトヲ得其局所ノ位置名稱ハ之ヲ告ス

第二條 加入者ハ一加入毎ニ電話線路トシテ複線式一回線ヲ架設シ且電話機一

第三類 特設電話規則

箇ヲ設備シ之カ保守其他必要ナル維持ヲナスヘシ但局所ノ事務室内ニ屬スル部分ハ此限リニアラス

設備、維持ノ方法及要件ハ別ニ加入者ニ命令ス

第三條 特殊ノ地域ニシテ遞信大臣特ニ其必要ヲ認めタルトキハ前條電話線路ヲ單線式トナスコトヲ得

第四條 特別ノ事由アルモノニシテ遞信大臣特ニ其必要ヲ認めタルトキハ同一ノ回線ニ依リ設備費及維持費ヲ分擔シ四加入以内ノ共同線加入ヲナスコトヲ得

第五條 電話加入ヲナサントスルモノハ一加入毎ニ別記様式ニヨリ其局所ヲ管轄スル一等郵便局長（以下單ニ一等局長トス）ヲ經テ遞信大臣ニ申請シ認可ヲ受クヘシ

左記各號ノ設備又ハ裝置ヲナサントスルモノハ必要ノ事由ヲ申請書ニ詳記スヘシ但第一號ノ場合ニ於テ既ニ加入セルモノノ電話線ニ參加シ共同線加入ヲ

ナサントスルモノハ其加入者ノ承諾書ヲ申請書ニ添付スヘシ

一 共同線加入ヲナサントスルトキ

二 電話線路ヲ單線式トナサントスルトキ

三 電話機、電鈴、受話器ヲ増設セントスルトキ

四 長距離電話ノ加入ヲナサントスルトキ

他人ノ所有ニ係ル家屋内ニ電話機ヲ設置セントスルモノハ其家屋所有者ノ承諾書ヲ申請書ニ添付スヘシ

第六條 加入申請者ハ一加入毎ニ加入登記料ヲ又加入者ハ一加入毎ニ電話交換料ヲ納ムヘシ其料金左ノ如シ

金五圓

一 加入登記料

年額金二十四圓

一 電話交換料 毎年一定ノ時期ヲ限リ取扱フ局所ニアリテハ前項ノ交換料一箇月金三圓トス

第三類 特設電話規則

加入登記料ハ郵便切手電話交換料ハ通貨ヲ以テ納付スヘシ加入ヲ認可セサル
トキハ加入登記料ハ之ヲ還付ス

第七條 加入電話機設置場所ト同一ナル自己ノ邸宅構内ニ於テ電信法第二條第
一號及明治三十三年(九月)遞信省令第五十一號官廳用電信電話規程第一條
第一號ニ依リ施設シタル電話機ヲ交換線ニ接續スルコトヲ得此場合ニ於テハ
其事由ヲ詳記シタル申請書ヲ遞信大臣ニ提出シ認可ヲ受クヘシ但本項交換線
ニ接續シ得ル加入者設備ノ機械、線條及附屬物品ニ對シテハ一等局長之ヲ檢
査シ適當ト認メタルモノニ限ル又之ヲ維持及交換取扱方法ハ一等局長指示ス
ルコトアルヘシ

前項ノ認可ヲ受ケタルトキハ附加交換料トシテ電話機一箇毎二年額金十二圓
ヲ納ムヘシ

第八條 加入申請者加入ノ認可ヲ受ケ其認可ノ日ヨリ六箇月以内ニ工事其他ノ
設備ニ著手セサルトキハ認可ヲ取消スコトアルヘシ

第九條 加入者ハ認可ノ電話機ニ依リ左ノモノトノ通話ヲナスコトヲ得但長距
離通話ハ其對話者モ亦長距離電話加入者ニ限ル

一 加入者ト同一ノ局所ニ屬スル他ノ加入者
二 他ノ局所ニ屬スル加入者但其局所ノ位置名稱ハ告示スル處ニ依ル
三 前各號ノ局所及別ニ告示スル局所又ハ自動電話所ニ來ルモノ
第十條 第九條第一項第二第三號ノ場合ニ於テ加入者力通話ヲ求メタルトキハ
電話交換料ノ外加入者ハ明治三十年十二月遞信省令第三十二號ノ料金ヲ通貨
ヲ以テ納ムヘシ

第十一條 局所ニ來タリ其局所ノ加入者ト通話スルトキハ一通話時ノ電話料金
ハ五錢トス

第十二條 毎年一定ノ時期ヲ定メテ取扱ヲナスヘキ局所ノ加入期間ハ其局所ノ
取扱期間ヲ以テ一期トス此期間中ノ電話交換料ニシテ一箇月ニ滿タサルモノ
ハ其月ノ現日數ニ應シ日割ヲ以テ計算ス一期ノ中途ヨリ加入シタルモノ亦同

第三類 特設電話規則

三百九十五

第十三條 十五日以上引續キ電話不通トナリタルトキハ其日數ニ對スル電話交換料ヲ徵收セス既ニ納付シタルモノハ納付人ノ請求ニ依リ還付ス但不通カ加入者ノ負擔ニ屬スル線路及機械等ニ原因スルモノハ此限リニアラス

前項不通日數ハ一等局長ニ於テ其事實ヲ認メタル日ヨリ起算シ料金ハ不通日數ニ應シ年額ノ日割ヲ以テ計算ス但第十二條ノ場合ハ月額ノ日割トス

第十四條 加入者電話機ノ種類又ハ設置場所ヲ變更シ若ハ加入電話機設置場所ト同一家庭内ニ於テ同一回線中ニ電話機、電鈴、受話器ヲ増設セントスルトキ又ハ長距離電話ノ加入ヲサントスルトキハ第五條ニ準シ一等局長ニ申請スヘシ之レヲ廢止セントスルトキ亦同シ

第十五條 加入者本規則又ハ他ノ命令若ハ主務官署ノ指揮ニ遵ハサルトキハ加入料取消スコトアルヘシ

第十六條 局所ノ位置ヲ變更スルトキハ電話線路ノ變更ヲナサシムヘシ

第十七條 第一條ノ局所所在地又ハ其附近ニ別ニ局所ヲ開設シタルトキハ加入者ニ對シ其局所ニ電話線路ノ接續變更ヲナサシムルコトアルヘシ

第十八條 電話交換方式又ハ取扱方法ヲ變更スルノ必要アルトキハ線路及器械裝置ノ變更ヲナサシムルコトアルヘシ

第十九條 加入者ハ前二條ノ場合ニ於テ現狀維持ヲ望ムトキハ通知ヲ受ケタル日ヨリ一箇月内ニ其事由ヲ一等局長ニ申出ツヘシ

第二十條 第十六條乃至第十八條ノ場合ニ於テ必要ナル費用ハ第二條ノ規定ニ依リ加入者ノ負擔トス

第二十一條 本規則ニ依ル局所所在地又ハ其附近ニ明治三十年(十二月)遞信省令第三十一號電話交換規則ニ依ルノ電話ヲ開始シタルトキハ認可ノ效力ヲ失フ其開始期日ハ三箇月前ニ通知スヘシ

前項ノ場合ニ於テ一般ノ電話交換ニ加入セントスルモノハ其通知ヲ受ケタル日ヨリ一箇月以内ニ加入ノ申込ヲナスヘシ

第三類 特設電話規則

第二十二條 明治三十年(十二月)遞信省令第三十一號電話交換規則第三條第三項第十條乃至第十二條第十四條第十六條第十九條第二十四條乃至第二十八條第三十一條第三十二條第三十五條第三十八條乃至第四十三條ノ規定及明治三十三年(九月)遞信省令第四十八號私設電信規則第十二條第一項第十三條乃至第十九條第二十一條ノ規定ハ本規則ニ之ヲ準用ス

附 則

第二十三條 本規則ハ明治三十八年五月一日ヨリ施行ス

第二十四條 明治三十五年(七月)遞信省令第二十九號特設電話加入規則明治三十五年(七月)遞信省令第三十三號ハ之ヲ廢止ス

第二十五條 明治三十五年(七月)遞信省令第二十九號特設電話加入規則ニ依リ認可ヲ得タル特設電話ノ加入ハ引繼キ認可ノ效力ヲ有スルモノトス
(別記様式略ス)

● 自動電話ニ關スル件

(明治三十三年九月十日) 遞信省令第五十四號

自動電話機ヲ設ケタル場所ニ於テ通話セムトスル者ハ電話料相當ノ通貨ヲ其ノ電話機ニ設備スル料金差入口ニ差入ルヘシ但シ一旦差入レタル通貨ハ何等ノ場合ト雖之ヲ還付セス
前項通貨ノ種類其他通話ニ關スル方法及制限ハ電話交換局ノ定ムル所ニ據ル

THE UNIVERSITY OF CHICAGO

PHYSICS DEPARTMENT

530 SOUTH EAST ASIAN AVENUE

CHICAGO, ILLINOIS 60607

TEL: 773-936-3700

FAX: 773-936-3700

WWW.PHYSICS.UCHICAGO.EDU

PHYSICS 101

PHYSICS 102

PHYSICS 103

PHYSICS 104

PHYSICS 105

PHYSICS 106

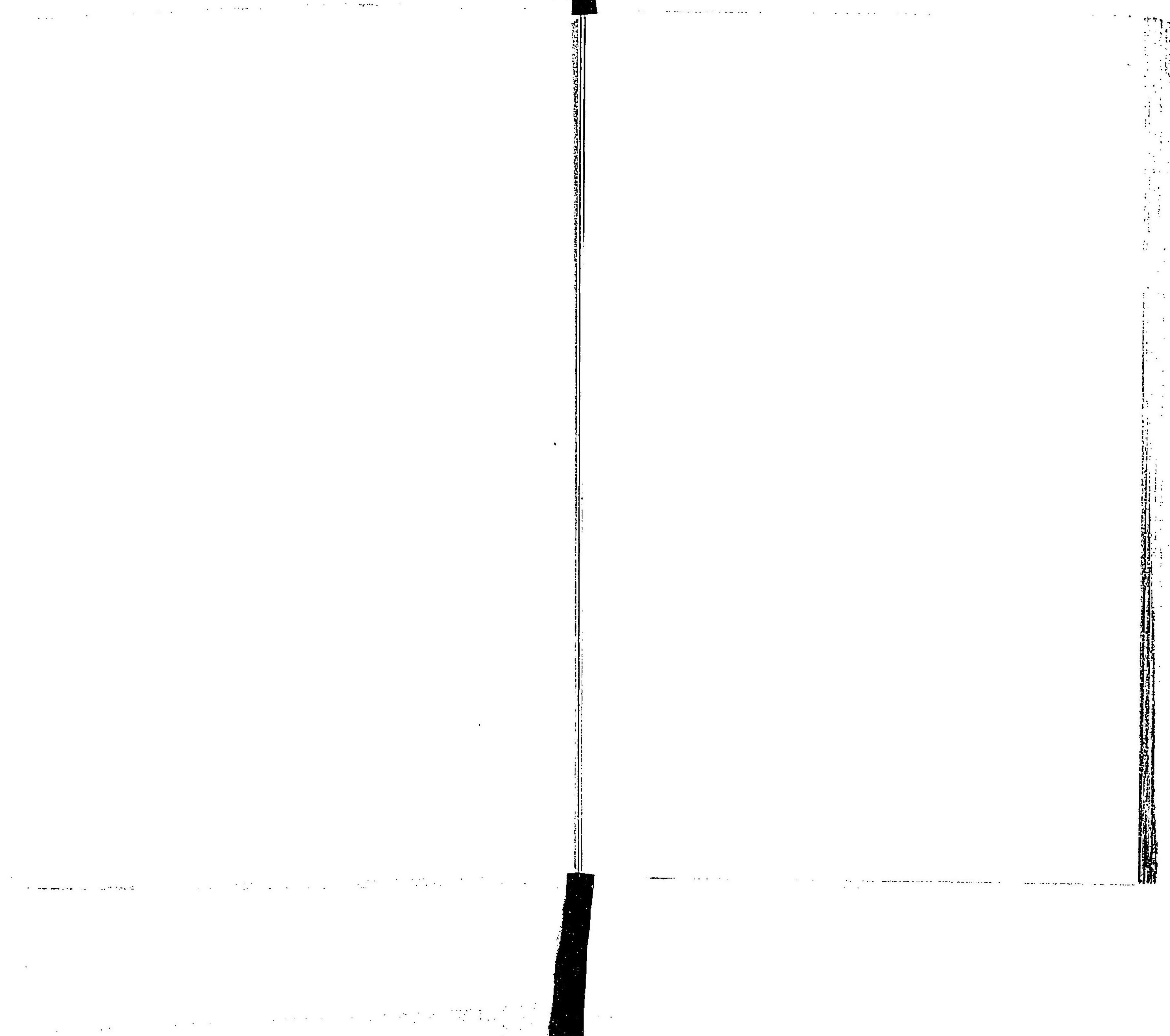
PHYSICS 107

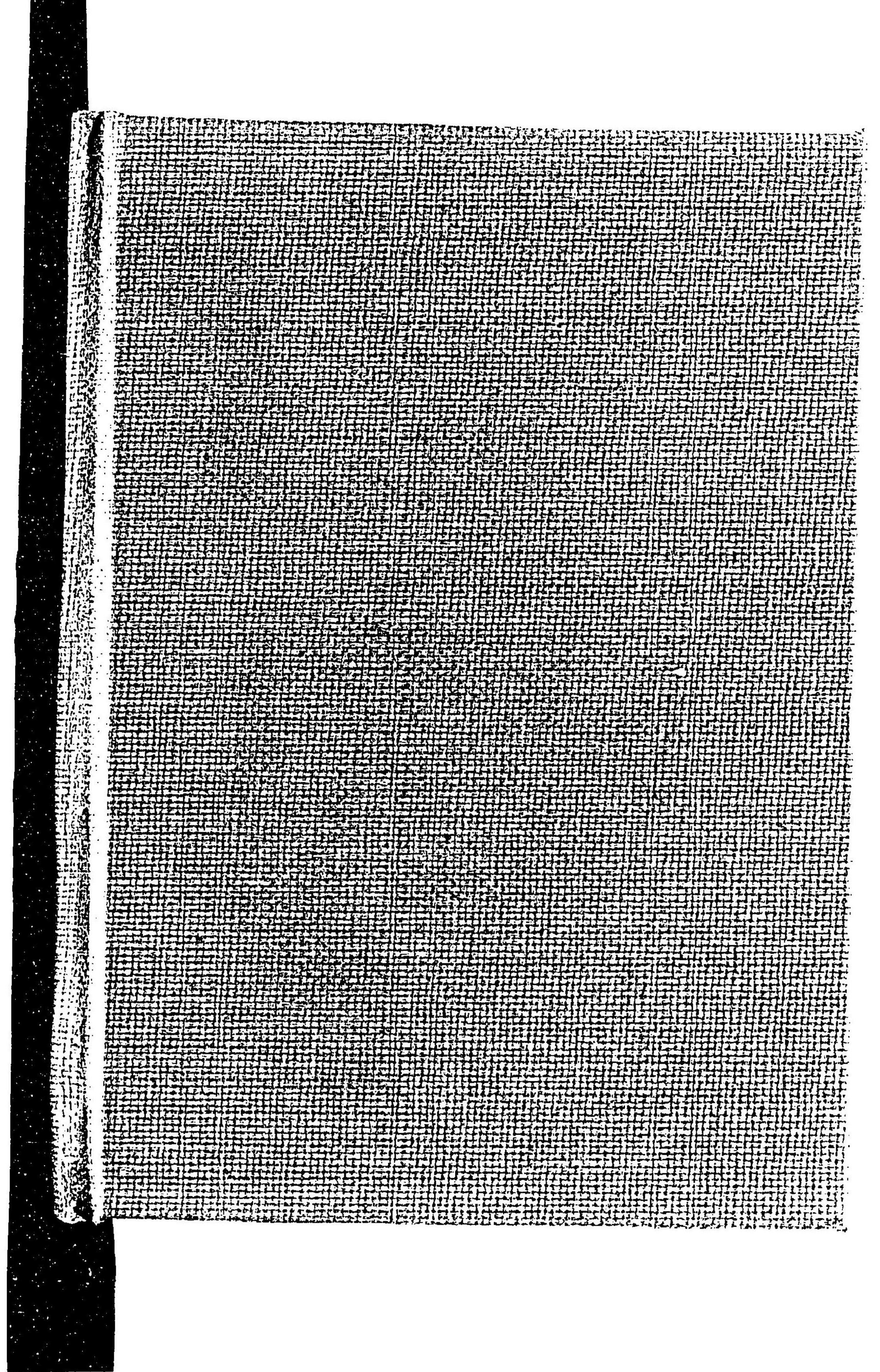
PHYSICS 108

1948

1948

1948





禁電子式複写

030961-000-4

CZ-5-0246

現行法令提要

山野 金蔵/編

M38

BBC-0328

